

関連科目

目次

総合演習 A(a)(前期).....	1	エディション研究特講(a)(前期),(b)(後期)	32
総合演習 A(b)(後期)	3	原書講読(英)(a)(前期),(b)(後期)	36
総合演習 B(a)(前期).....	5	原書講読(独)(a)(前期),(b)(後期)	39
総合演習 B(b)(後期).....	7	原書講読(仏)(a)(前期),(b)(後期)	44
総合演習 C(a)(前期)	9	音楽文献研究(a)(前期),(b)(後期)	48
総合演習 C(b)(後期)	11	論文演習 A(a)(前期),(b)(後期)	52
総合演習 D(a)(前期),D(b)(後期)	14	論文演習 B(a)(前期),(b)(後期)	55
総合演習 E I (集中).....	17	論文演習 C(a)(前期),(b)(後期)	58
総合演習 E II (集中).....	19	作品分析特講 D(a)(前期),(b)(後期).....	61
作品分析特講 A(a)(前期),(b)(後期)	21	作品分析特講 F(a)(前期),(b)(後期)	64
作品分析特講 B(a)(前期),(b)(後期).....	25	博士共同研究 I (a)(前期),(b)(後期).....	67
作品分析特講 C(a)(前期),(b)(後期)	28	博士共同研究 II (a)(前期),(b)(後期).....	70

総合演習 A(a)(前期)					
担当教員	土田 英介 教授		曜日時限	水 4 時限	
実施キャンパス	調布	単位	2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

バッハから近代までの西洋音楽の歴史とともに、スタイルの違い、共通点を考えていく。

【到達目標】

それぞれのスタイルの認識とともに、学生 1 人 1 人が個と普遍を意識するようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

大学院生のみとなる。2023 年度の「作品分析特講 C」と共通する所は多いが、皆さんに考え演奏してもらう事を主体としたい。ですから、和声力、分析力が必要となる。

【授業の形式】

講義と演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ウィーン古典派のソナタ形式について。

事前学習	今までに経験した古典派のソナタ形式で書かれた楽章について復習してくること。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

2.ウィーン古典派のソナタ形式の確立について

各自バッハ平均律クラヴィーア曲集第 2 巻の楽譜を持ってくること。

事前学習	バッハ平均律クラヴィーア曲集第 2 巻からウィーン古典派のソナタ形式に近いプレリュードを探してくる事。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

3.ハイドン、ピアノソナタ Fdur Hob.XVI/29 第 1 楽章と Adur Hob./26 第 1 楽章について。

事前学習	ハイドンの作品の経験したものを、復習してくること。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

4.ハイドン、ピアノソナタ Esdur Hob./49 第 1 楽章について。

事前学習	ハイドン、ピアノソナタ Esdur Hob./49 第 1 楽章について考えてくる事。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

5.ハイドン、弦楽四重奏曲GDur Op.76-1 第1楽章について。

事前学習	ハイドン、弦楽四重奏曲GDur Op.76-1 第1楽章の楽譜を見てくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

6.モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第1楽章について。

事前学習	モーツァルトの作品の経験したものを、復習してくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

7.モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第2楽章について。

事前学習	モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第2楽章について楽譜を見てくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

8.モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第3楽章について。

事前学習	モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第3楽章について楽譜を見てくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

9.ベートーヴェンの書式について 1

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

10.ベートーヴェンの書式について 2

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

11.ベートーヴェンの書式について 3

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

12.ベートーヴェン、弦楽四重奏曲第3番 DdurOp.18-3 第1楽章について。

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

13.ベートーヴェン、ピアノソナタ第31番 Asdur 第1, 2楽章について。

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

14.ベートーヴェン、ピアノソナタ第31番 Asdur 第3楽章について。

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

15.復習とまとめ、通奏低音について。

事前学習	前期の内容を整理してくる事	時間	45分
事後学習	後期に向けて通奏低音について考えること。	時間	45分

【オフィスアワー】

水曜 4限後、調布教員室

【教材】

適宜に資料を配ることもあるが、名曲ばかりなので、楽譜は各自用意すること。

【その他】

当たった学生に分析、演奏をしてもらうため、授業開始時間の30分前からは教員室で待機している、皆さんに配る資料等をコピーします。

総合演習 A(b)(後期)						
担当教員			土田 英介 教授		曜日時限	水 4 時限
実施キャンパス		調布	単位	2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

バッハから近代までの二重奏ソナタ、室内楽を考えていく。前期と同じように演奏と分析を大学院の学生にやってもらいたく思う。

【到達目標】

それぞれのスタイルに対して考え、表現する視点を得られるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

和声力は勿論、分析力も必要となる。

【授業の形式】

講義と演習。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】**1.通奏低音について。**

バッハ、フルート・ソナタ EdurBWV1035 第 1 楽章。

事前学習	作曲の学生は、Realisation を考え、演奏してくる事。	時間	45 分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45 分

2.通奏低音について。

バッハ、フルート・ソナタ EdurBWV1035 第 1 楽章。

事前学習	作曲の学生は、Realisation を考え、演奏してくる事。	時間	45 分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45 分

3.シューマン、ヴァイオリンソナタ第 1 癌 a moii Op.105 第 1 楽章について。

事前学習	シューマン、ヴァイオリンソナタ第 1 癌 a moii Op.105 第 1 楽章の楽譜を見てください。	時間	45 分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45 分

4.シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第2楽章について。

事前学習	シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第2楽章の楽譜を見てください。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

5.シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第3楽章について。

事前学習	シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第3楽章の楽譜を見てください。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

6.ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第1楽章について。ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第1楽章について。

事前学習	ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第1楽章について、ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第1楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

7.ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第2楽章について。ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第2楽章について。

事前学習	ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第2楽章について、ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第2楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

8.ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第3楽章について。ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第3楽章について。

事前学習	ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第3楽章について、ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第3楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

9.フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第1楽章について。

事前学習	フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第1楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

10.フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第2楽章について。

事前学習	フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第2楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

11.フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第3楽章について。

事前学習	フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第3楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

12.ドビュッシーの書式について。

事前学習	ドビュッシーの経験した曲を、復習してください。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

13.ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第1楽章,第2楽章について。

事前学習	ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第1楽章,第2楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

14.ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第2楽章,第3楽章について。

事前学習	ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第2楽章,第3楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

15.まとめと復習

事前学習	後期の内容を整理してくる事。	時間	45分
事後学習	後期の内容ををそれぞれ自分の事として、受け止めること。	時間	45分

【オフィスアワー】

水曜4限後、調布教員室。

【教材】

適宜に資料を配ることもあるが、名曲ばかりなので各自楽譜を用意する事。

【その他】

当たった学生に分析、演奏をしてもらうため、授業開始時間の30分前からは教員室で待機している、皆さんに配る資料等をコピーします。

総合演習 B(a)(前期)						
担当教員			佐藤 岳晶 講師		曜日時限	金 5 時限
実施キャンパス		調布	単位	2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

<音、身体、異文化のエクリチュール>

自らとは異なるエクリチュール・技法を有する他者の表現世界との出会いがもたらすものについて、音、言葉、身体の観点から考える。特に西洋音楽を専門とする者が、非西洋音楽を理解すること、そこから触発されるものについて、ここでは日本の伝統音楽・芸能へのアプローチを主な議題として検討する。異文化理解についての主要な先行研究と問題系を押さえつつ、表現という総合的視座から、思考・感性を開いていくワークショップを展開する。

【到達目標】

他者の文化について関心を高め、関連する先行研究や問題系を踏まえた議論ができるようになる。異文化に開かれた複眼的視野から、自らの思考・表現を相対化し、活性化していけるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

必要な技能:本を読んで、ものを考えること(この授業では、テキストを読み、議論する演習が多く行われます)。

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス・導入:他者の言葉・身体・世界に触発される「音楽」

事前学習	任意の日本の伝統芸能に触れる(映像等でも良い)。	時間	60分
事後学習	授業内で扱われた諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

2.他者の言葉と出会う① 言語の多様性をめぐって

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

3.他者の言葉と出会う②ローカル言語の表象:石牟礼道子『苦海浄土』を読む

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

4.他者の言葉と出会う③ポストコロニアル文学の世界:クレオールと非西欧世界の言語表象

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

5.他者の言葉と出会う④ディアスポラの言葉:言語の他者性

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

6.他者の世界と出会う①カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアリズムの探求

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

7.他者の世界と出会う②鶴見和子の「曼荼羅」の思想と内発的発展論

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

8.他者の世界と出会う③過去との対話:渡辺京二『逝きし世の面影』と石牟礼道子『天湖』

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

9.他者の音楽と出会う①近世邦楽の世界 I:「コンテキスト」からのアプローチ

事前学習	指定した配信動画を事前に視聴する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

10. 他者の音楽と出会う②近世邦楽の世界 II:「テキスト」へのアプローチ

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

11.他者の音楽と出会う③近世邦楽の世界 III:地歌ワークショップ

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	ワークショップで行われたことについて整理し、考察する。	時間	30分

12.他者の音楽と出会う④異(音楽)言語の「ポリフォニー」の創造

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

13.他者の音楽と出会う⑤異(音楽)言語への「翻訳」の課題

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

14.他者の身体と出会う①伝統芸能の身体性・技

事前学習	指定した配信動画を事前に視聴する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

15.他者の身体と出会う②伝統芸能の身体性・技の再創造

事前学習	指定した配信動画を事前に視聴する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

【オフィスアワー】

金曜日 調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【教材】

授業時に適宜紹介する。

総合演習 B(b)(後期)					
担当教員		渡辺 裕紀子 講師		曜日時限	
				金 5 時限	
実施キャンパス		単位		対象年次	
調布		2 単位		修士 1 年～	

【授業の概要】

本授業では主に 20 世紀から 21 世紀以降の音楽について、音楽家が非西洋文化圏の文化をどのように捉え、それを作品に反映させてきたのか作品に触れながら思考していく。グローバル化する世界の中で音楽は刻々と変化している。世界各地で生まれる音楽は常に社会から影響を受けており、その概念も文脈により異なる。過去の作品を弾く上でも、また新しい作品に触れる上でも、多様な視点で音楽を捉える力はこれからの時代に生きる音楽家として重要なことである。異なる文化感の摩擦が世界中で起きている今、多様性について音楽家として何をどう考えて提示していくべきか、実際に最終授業では自身に関わるコンサートのプログラムを考え、発表してもらおう。

【到達目標】

異なる文化や文脈を持つ作品の背景について学び、多様な視点で音楽をとらえる想像力を身につける。音楽家として生きていく上で、その作品を作曲したり演奏したりする意味や、何かを選択することでどのように見られたり、人に感じさせる可能性があるのか、深く考えることができるようになる。また自らが音楽家として何を大事にしていきたいのか、主体的に考え、言語化できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

修士課程 1、2 年生。

【授業の形式】

演習(対面)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

モーリス・ドラージュ、ヘンリー・カウエル等の作品①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

2.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

モーリス・ドラージュ、ヘンリー・カウエル等の作品②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

3.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

武満徹の作品など①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

4.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

武満徹の作品など②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

5.<隣国の音楽、韓国や中国の音楽と楽器>

イサン・ユンの作品など①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

6.<隣国の音楽、韓国や中国の音楽と楽器>

イサン・ユンの作品など②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

7.<東南アジアの新しい音楽、伝統と革新の関係>

1970年以降のフィリピンの音楽①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

8.<東南アジアの新しい音楽、伝統と革新の関係>

1970年以降のフィリピンの音楽②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

9.<社会と音楽の関係、現代社会問題やポリティクスを含む音楽>

ヨハネス・クライドラー等の作品①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

10.<社会と音楽の関係、現代社会問題やポリティクスを含む音楽>

ヨハネス・クライドラー等の作品②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

11.<女性作曲家を知る>①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

12.<女性作曲家を知る>②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

13.<コンサートプログラムを考えるためのディスカッション>

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

14.<発表>

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

15.<発表>

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

【オフィスアワー】

金曜日 5限後 調布教員室

【テキスト】

1. Komponieren im Kontext der Globalisierung : Perspektiven für eine Musikgeschichte des 20. und 21. Jahrhunderts Christian Utz 2014 年

【教材】

授業時に指示

総合演習 C(a)(前期)					
担当教員		沼野 雄司 教授		曜日時限	
				金 3 時限	
実施キャンパス		単位		対象年次	
調布		2 単位		修士 1 年～	

【授業の概要】

本演習は、修士課程と博士課程の学生を対象にして、20 世紀の「音楽」と「社会」の関係について、クロニクルな認識を土台にした考察を加えるものである。目的は以下の3点に集約される。

(1) 20 世紀のレパートリーに対する視野を拡げること

学部教育でレパートリーの中心になっているのはバッハからドビュッシーあたりまでの 200 年ほどの音楽だが、しかし既に世界が 20 世紀に突入してから、120 年以上が経過している。21 世紀の音楽家にとって、これらの作品をレパートリーに取り入れることは必須である(タケミツ一曲をプログラムに組み込んでこと足れりとする時代はすでに過ぎ去った)。本演習はそのための土台を提供する。

(2) 音楽の土壌となっている「社会」に対する基本的な知識を習得すること

例えばベートーヴェンの創作の軌跡はフランス革命、あるいはその後のナポレオン戦争の展開と直接的に関わっているが、こうした意識がない学生はきわめて多い。また、カトリックとプロテスタントの差異を知ることなく「宗教音楽」を演奏する学生も少なくない。今後、プロの音楽家として活動する場合、あるいはヨーロッパで学習を続けることになった場合、こうした無知は致命的なものともなり得る。本演習はそのための基礎を鍛錬する場でもある。

(3) 知的で成熟した音楽家としての基礎を養うこと

大学院という場所は、各人がそれぞれの立場からの知識を交換し、議論を重ねるための「言語」を習得する場でもある。ヨーロッパの音楽家と比した時、日本の音楽家はこの「言語」がきわめて貧しい印象がある。本演習では参加者全員に知的負荷をかけるとともに、明快なプレゼンテーションと積極的なディスカッションを課すことによって、次代を担う音楽人を育成することを試みる。当然ながら、この中で学生は様々な文献を読み、自分の頭で論理を組み立て、積極的に議論を交わすことになるだろう。興味がある学生は、まずは最初のイントロダクションをのぞいてみてほしい。

【到達目標】

20～21世紀の音楽について確固たる自分のパースペクティブを持ち、意見を述べられるようになること。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

予備知識は特に必要ないが、積極的に発言する姿勢が求められる。

【授業の形式】

【対面】演習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, Dで評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験/学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション: 方法・手順・グラウンドルールなど

事前学習	シラバスをよく読んでおくこと	時間	30分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分

2. 1890年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分

3. 1900年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分

4. 1910年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分

5. 1920年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分

6. 1930年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分

7. 1940年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

8.1950年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

9.1960年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

10.1970年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

11.1980年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

12.1990年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

13.2000年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

14.2010年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

15.まとめ

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30分
------	-------------	----	-----

事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60分
------	-------------	----	-----

【オフィスアワー】

メール(numano@tohomusic.ac.jp)などでアポイントをとること。

調布2号館(図書館)1階、研究室1

総合演習 C(b)(後期)					
担当教員		佐藤 康太 講師		曜日時限	
				月 4 時限	
実施キャンパス		単位		対象年次	
調布		2 単位		修士 1 年～	

【授業の概要】

<受容研究の基礎>

音楽作品は、生まれた後作曲家本人の手を離れ、さまざまな形に変容して受容されていく。音楽作品がどのように変容し、新しい上演の文脈においてどのように機能しているかを研究するのが受容研究である。この授業では、音楽作品の受容について基礎的な事柄や研究方法を演習形式で学ぶ。レジュメ作成など口頭発表の基本的な作法も指導する。

【到達目標】

受容研究について基礎的な考え方と方法論を身につけ、自ら受容研究ができるようになる。適切な資料を用意して、口頭発表ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。

【授業の形式】

演習。履修者には1人最低1回、口頭発表をしてもらう(30分程度を想定)。最初数回は講義に近い形で基礎的なことを学び、その後は学生の発表とその内容に関するディスカッションで授業を進める。人数が多い場合には共同発表になることもある。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, Dで評価する。口頭発表を50%、ディスカッションへの参加度や発言、その他課題を50%で評価する。5回以上の欠席は単位放棄と見なす。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表内容についてはその都度授業内でフィードバックを行う。

【授業展開と内容-後期】

1. 作品の受容とそれを考える意味; 発表順決め

事前学習	音楽作品が生まれた後どのような過程をたどるか、考えておく	時間	30分
事後学習	テマリストと自身の研究テーマを照らし合わせて、発表内容を考える。	時間	60分

2. 解釈と記述の哲学: 作用史、厚い記述、マイクロヒストリア

事前学習	作曲家とは遠く離れたところでなされる上演を研究対象とすることにどんな意味があるか、考えておく	時間	45分
事後学習	自分が考えている発表テーマが、その時代のコンテキスト全体の中でどのような意義があるか考える。	時間	45分

3. 実践例①同時代受容: オペラアリアから教会カンタータへ

事前学習	18世紀前半のオペラのアリアの形式について復習しておく。	時間	45分
事後学習	どのような変化によって当該アリアが新しい文脈に適應したか、整理しておく。	時間	45分

4. 実践例②時の隔たった受容: ナチス政権下におけるヘンデルのオラトリオ上演

事前学習	独裁政権下で音楽にどのような規制がかけられうるか考えておく。	時間	45分
事後学習	授業内容から資料から確実に言えることと、推測による部分を分けて整理する。	時間	45分

5. 以下学生による発表とディスカッション。テーマは一例で、他に興味のあるテーマがある場合には自分で選んだものでもかまわない。

発表①メンデルスゾーンによるバッハ受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

6. 発表②モーツァルトによるヘンデル受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
------	--	----	-----

事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分
------	--	----	-----

7. 発表③隠れキリタンによる聖歌受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

8. 発表④明治期の洋楽受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

9. 発表⑤ベートーヴェンの交響曲の同時代受容——室内楽編曲

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

10. 発表⑥「第九」の日本における受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

11. 発表⑦「パッヘルベルのカノン」の現代における受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

12. 発表⑧映像作品の中の西洋音楽——《エヴァンゲリオン》《涼宮ハルヒの憂鬱》他

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

13. 発表⑨パレストリーナの神格化と19世紀

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
------	--	----	-----

事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分
------	--	----	-----

14. 発表⑩商業戦略としてのクラシックCMにおける西洋音楽

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

15. まとめ、講評、展望

事前学習	すべての発表を振り返り、それぞれの要点を確認しておく。	時間	45分
事後学習	自身が作品と関わる際の意味の網目を客観視し、自分が作品にどのような意味を付与するのかを考える。	時間	45分

【オフィスアワー】

火曜 12:40-13:40 仙川教員室

それ以外の時間についてはアポイントメントを取ってください。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

Katrin Gerlach, Lars Klingberg, Juliane Riepe und Susanne Spiegler, Zur Rezeption Georg Friedrich Händels in den deutschen Diktaturen: Quellen im Kontext, Beeskow: Berlin, 2012.

C. ギャーツ『文化の解釈学1』、吉田 禎吾他訳、岩波書店、1987年(岩波現代選書)。

巻田悦郎『ガダマー入門: 語りかける伝統とは何か』、アルテ、2019年。

皆川達夫『洋楽渡来考: キリシタン音楽の栄光と挫折』、日本キリスト教団出版局、2004年。

その他個別トピックについてはその都度指示する。

総合演習 D(a)(前期),D(b)(後期)					
担当教員	安田 和信 准教授		曜日時限	水 4 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

18世紀中期から19世紀初期にかけての音楽の形式分析、特に William Caplin など近年の英米圏の理論を習得することを目的とする。分析対象は J.Haydn, W.A.モーツァルト, L.v.ベートーヴェンの作品とする。形式分析のみならず、音楽に関わる分析には最終的には主観を免れない部分があるとはいえ、多くの現代の研究者たちが援用している分析理論にはやはりある程度の精度や客観性が認められ、その習得を通じて音楽について書き、語る際の客観性を身につけて欲しい。

前期では主に sentence, period, small-ternary のような比較的小規模なフレーズの分析、後期ではソナタ形式楽章の分析を扱う。後期の議論は前期が前提になっているため、後期受講希望者は前期の履修を勧める。

授業の流れは前期・後期ともに以下のようにする予定である。

最初の数回は教員による実例の分析を通じて、理論の骨格、分析のための用語などを習得する。

その後は各回につき数名(受講者の人数による)が分析のプレゼンテーションを行う。

どの回においても発表者や教員だけでなく履修者全員が活発に意見交換、議論を行い、優れた音楽の書き手、語り手を養成する場としても機能するように努めていきたい。

この授業の対象とする時期は限定的ではあるが、紹介する理論は特に 19 世紀初期以降の音楽にも十分応用が可能であり、特に形式分析について関心を持つ学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

18 世紀中期から 19 世紀初期にかけて音楽を対象とした形式分析の理論を習得し、客観的な分析記述ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

積極的に議論をしたい人を歓迎する。

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.イントロダクションおよび教員による基本用語の紹介

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

2.教員による分析のプレゼンテーションとディスカッション

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

3.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション1

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

4.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション2

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

5.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション3

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

6.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション4

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

7.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション5

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

8.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション6

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

9.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション7

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

10.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション8

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

11.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション9

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

12.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 10

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

13.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 11

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

14.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 12

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

15.まとめ

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】**1.イントロダクションおよび前期の振り返り**

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

2.教員による分析のプレゼンテーションとディスカッション

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

3.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション1

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

4.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション2

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

5.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション3

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

6.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション4

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

7.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション5

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

8.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション6

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

9.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション7

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

10.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション8

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

11.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション9

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

12.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 10

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

13.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 11

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

14.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 12

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

15.まとめ

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

【オフィスアワー】

水曜日 5 限後に時間を確保します。

総合演習 E I (集中)					
担当教員		近藤 譲 特任教授		曜日時限	
				金 3 時限	
実施キャンパス		単位		対象年次	
調布		1 単位		修士 1 年～	

【授業の概要】

西洋の芸術伝統における「音楽」というものを成り立たせている基本的な諸要素について、作曲家の視点から考察する。それらの要素には、音楽の記号論的側面(素材、形式・構造)と、意味論的側面(表現、意味)の両面が含まれる。考察に当たっては、20世紀以降に作曲された具体的な作品の一つを取り上げ、それを糸口として、現代の音楽を中心に据えつつ、西洋の音楽伝統の歴史全体を視野に入れて論じることによって、常に、現代の音楽と過去の諸時代の音楽の歴史的な繋がりを見る。こうした音楽の考察は、現代の音楽の理解に役立つだけでなく、過去の時代の音楽の現代における理解にも資するだろう。

【到達目標】

音楽の構造や形式、音楽の意味と歴史についての理解を深めることができる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

音楽理論と音楽史に関する基本的な知識を具えていることが望ましい。

【授業の形式】

講義が中心となる。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	30%	70%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験/学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. 授業期日: 4月12日(金)。内容: 音楽の伝統的な組織構造と、20世紀におけるその変化について、C. ドビュッシー《グラナダのタベ》を糸口に論じる。

事前学習	C. ドビュッシー《グラナダのタベ》を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60分

2. 授業期日: 5月17日(金)。内容: 音楽の形式と構造という概念について、P. ブレーズ《主のない槌》を糸口に論じる。

事前学習	P. ブレーズ《主のない槌》を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60分

3. 授業期日: 6月14日(金)。内容: 音楽の構成要素としての音響、あるいは、テクスチャーについて、G. リゲティ《フリードリヒ・ヘルダーリンによる3つの幻想曲》を糸口に論じる。

事前学習	G. リゲティ《フリードリヒ・ヘルダーリンによる3つの幻想曲》を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60分

4. 授業期日: 7月19日(金)。内容: 音楽における素材である「音」を強調する作曲の超越主義的な姿勢について、E. ヴァレーズ《ハイパープリズム》を糸口に論じる。

事前学習	E. ヴァレーズ《ハイパープリズム》を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60分

5. 授業期日: 9月20日(金)。内容: 「旋律」というものについて、そして、その作曲上の可能性について、C. ヴィヴィエ《私は見知らぬ街に戻ってきた》を糸口に論じる。

事前学習	グレゴリオ聖歌を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60分

6.授業期日:11月15日(金)。内容:「芸術」とは何か、ということについて、F. ラーベ《Was??》を糸口に論じる。

事前学習	ベートーヴェンの第3交響曲「英雄」を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分

7.授業期日:12月13日(金)。内容:作曲における「歴史」の役割について、C. アイヴズ《3つの四分音小品》を糸口に論じる。

事前学習	L. ベリオの《シンフォニア》を聴いておくことが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分

8.授業期日:1月10日(金)。内容:一人の作曲家として、私自身の作曲経験を通じて、美学的姿勢と作曲について論じる。

事前学習	近藤譲の作品をいくつか聴いておくことが望ましい。	時間	60分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	30分

【オフィスアワー】

各回の授業終了後の時間。

【教材】

各回の授業でプリントを配布する。

総合演習 E II (集中)					
担当教員	藤井 一興 特任教授		曜日時限	水 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

次に展開し移行するための基本演習の習得。作曲家の考えたオーケストレーションの必然を分析する。作品の楽譜をコピーして配布する。

【到達目標】

様々なスタイルを的確にレジュメする応用能力を養われたい。自分である事象を敷衍する能力を身に付けてほしい。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

基本的な和声対位法、学識を修めてほしい。様々なオーケストレーションにも興味を持ってほしい。

【授業の形式】

講義を中心とする。バロックから古典、ロマン派、近現代までの重要なレパートリーを研究する。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回の授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1.9月25日

ベートーヴェン ピアノソナタ 作品109

常に新鮮な呼吸、左手の休符が作り出す音響空間の素晴らしさ。2楽章における同主短調の精神の厳しさ。3 楽章の時空間の広がり。バスのラインの美しさ。自在な変奏による精神の柔軟性。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

2.10月2日

プーランク 2台ピアノのためのコンチェルト

音域リズムの設定が素晴らしく、同じモチーフを用いているとはとても思えない。オーケストラの打楽器の扱いもいつも生き生きとしている。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

3.10月9日

ラヴェル ダフニスとクロエ

生き生きとしたアップビートとバレエの必然性、美しく立体的なオーケストレーションの学習。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

4.10月16日

武満徹のオーケストラ作品 妖精の庭

繊細なオーケストレーションの研究。無駄の無い音域の設定、呼吸する美しいリズム、細かい微分音程の美しい綾。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

5.10月23日

ドビュッシー 映像

第1集

水の映像が繰り広げる様々な倍音の組み合わせ。多彩な音域の変化。ドビュッシーがラモーに対する畏敬の念がドビュッシーの息吹と共に深く伝わる。抽象的な動きが現代に再び聴いても新鮮な感性に驚きを隠せない。

第2集

全音音階とリズムの組み合わせが後に倚和音を伴い、斬新な音響空間を繰り広げる。

第2曲目、ドビュッシーの古い寺院を回想する深い音響、完全四度と完全五度の組み合わせが、現在の人が聴いていても倍音の美しさにハッとさせられる。

第3曲目、ジャポニズムの代表作。ドビュッシーの当時はとてつもなく高価であったに違いない錦鯉の泳ぐ様を自在に表現した天才的な作品。錦鯉の動きから派生する32音符と64連符を軽やかに演奏されたい。倚音をよく分析されたい。ペダルも濁らないように踏み換えてほしい。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

6.10月30日

シューベルト 冬の旅

詩人の考えた世界に身を委ね自身の人生を重ねるシューベルトの哲学の美しさ。休符の持つ深みに我々は身を委ねる。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

7.11月6日

シューマン 幻想曲

当時としては画期的なピアノリズム、美しい倍音の反響。ポリリズムの巧妙な企て。2楽章の倚音掛留音の多彩な変化に注目。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

8.11月13日

ラヴェル 弦楽四重奏曲 へ長調

美しい対位法の織り成す綾。

2楽章の生き生きしたリズム構成。

3楽章の内面的なチェロの歌。

フィナーレの華やかな弦楽器のリズムが繰り広げるヴィルトュオディティ。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

【オフィスアワー】

調布 213 教室にて授業前後に時間を確保します。

作品分析特講 A(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	石島 正博 教授		曜日時限	火 2 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

〈実感するアナリーゼ〉

古典から現代までのさまざまな作品をテキストに、時代や風土、様式・語法などを踏まえつつ、単なる知識の習得に終始しない音楽を実感できる知の仕組みを演奏を通して体験します。「続くべくして続く」ものみに宿る音楽の「生命《anima》」と「創造性《creativity》」とは何かを、受講生とともに考えます。前期は 18 世紀の古典派音楽、19 世紀のロマン派音楽を中心に、後期はドビュッシー、ラヴェル、メシアンのフランス音楽の系譜から日本の現代音楽までを、個々の作品を生成する《知・情・意》を演奏を通して実感します。

【到達目標】

様式や語法を踏まえた上で、作品個々の音楽に内在する伝統と革新が生み出す音楽の魅力を、知識に留まらず演奏に応用できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

詳しい分析対象作品は受講生と相談して決める予定。グループ(弦楽四重奏、ピアノ3重奏 etc.)での履修も可。

前期はハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ブラームスなど、後期はドビュッシー、ラヴェル、ヤナーチェク、デュティユー、リグティ、ミュライユ、武満、三善 etc.を扱う予定。前後期ともカルテットでのチーム参加を大歓迎します。

【授業の形式】

演習中心

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. 授業ガイダンス

事前学習	特になし	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

2. 18世紀の音楽作品

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	事前に分析対象曲の概要について学習しておく	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

3. 18世紀の音楽作品

様式・語法の整理

事前学習	18世紀の様式、語法について復習しておく	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

4. 18世紀の音楽作品

トライアル 読譜の新しい視点、演奏へのアプローチ

事前学習	新しい視点、演奏へのアプローチを個々に考える	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

5. 18世紀の音楽作品トライアル

トライアル 読譜の新しい視点、演奏へのアプローチ

事前学習	新しい視点、演奏へのアプローチを個々に考える	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

6. 18世紀の音楽作品

未来へのディスカッション

事前学習	シラバスの内容を個々に考える	時間	45分
事後学習	自分の意見を整理する	時間	45分

7. 18世紀の音楽作品

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	事前に分析対象曲の外観を学習しておく	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

8. 18世紀の音楽作品

様式・語法の整理

事前学習	19世紀の様式、語法について復習しておく	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

9. 19世紀の音楽作品(ロマン派の作品を中心に)

トライアル 読譜の新しい視点、演奏へのアプローチ

事前学習	新しい視点、演奏へのアプローチを個々に考える	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

10. 19世紀の音楽作品(ロマン派の作品を中心に)

トライアル 読譜の新しい視点、演奏へのアプローチ

事前学習	新しい視点、演奏へのアプローチを個々に考える	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

11.19世紀の音楽作品(ロマン派の作品を中心に)

未来へのディスカッション

事前学習	シラバスの内容を個々に考える	時間	45分
事後学習	自分の意見を整理する	時間	45分

12.19世紀の音楽作品(ロマン派の作品を中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	事前に分析対象曲の概要について学習しておく	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

13.19世紀の音楽作品(ロマン派の作品を中心に)

トライアル 読譜の新しい視点、演奏へのアプローチ

事前学習	新しい視点、演奏へのアプローチを個々に考える	時間	45分
事後学習	授業の内容を整理しておく	時間	45分

14.19世紀の音楽作品(ロマン派の作品を中心に)

トライアル 読譜の新しい視点、演奏へのアプローチ

事前学習	シラバスの内容を個々に考える	時間	45分
事後学習	自分の意見を整理する	時間	45分

15.ミニコンサート

事前学習	コンサートの準備	時間	45分
事後学習	次のコンサートへの反省	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1.ガイダンス

事前学習	特になし	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

2.20世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	事前の読譜	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

3.20世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の復習	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

4.20世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

5.20世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

6.20 世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

7.20 世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

8.20 世紀の音楽作品(ドビュッシー、ラヴェルを中心に)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

9.20 世紀の音楽作品(新ウィーン学派、メシアンからミュライユ、日本の現代音楽まで)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

10.20 世紀の音楽作品(新ウィーン学派、メシアンからミュライユ、日本の現代音楽まで)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

11.20 世紀の音楽作品(新ウィーン学派、メシアンからミュライユ、日本の現代音楽まで)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

12.20 世紀の音楽作品(新ウィーン学派、メシアンからミュライユ、日本の現代音楽まで)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

13.20 世紀の音楽作品(新ウィーン学派、メシアンからミュライユ、日本の現代音楽まで)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

14.20 世紀の音楽作品(新ウィーン学派、メシアンからミュライユ、日本の現代音楽まで)

プレゼンテーションと演奏、ディスカッション

事前学習	授業内容の事前の準備	時間	45分
事後学習	授業内容の整理	時間	45分

15.ミニコンサート

事前学習	コンサートの準備	時間	45分
事後学習	次のコンサートへの反省	時間	45分

【オフィスアワー】

火曜日 授業前後に仙川教室

作品分析特講 B(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	加藤 真一郎 講師		曜日時限	月 2 時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

＜ロマン派の室内楽曲～ブラームス＞

今年度はブラームスのピアノ四重奏曲全3曲を取り上げる。ロベルト&クララ・シューマン夫妻との特別な時間が反映されたこれらの作品を受講生の演奏と講師の対話、分析を通して見ていくことで、ブラームスの人と音楽への理解、さらに「文化としての音楽」「読譜とは」「音楽の実践とは」を考えるきっかけとなるだろう。受講生の要望によっては他の作品も取り上げる。

【到達目標】

- ①ブラームスの人と音楽をより理解できるようになる
- ②より深く楽譜を読むことができるようになる
- ③室内楽の実践を通して、他者と一つの音楽をつくることができるようになる

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

演奏参加を受講の前提とする。大学院生にふさわしい演奏の質が望まれる。

【授業の形式】

講義。受講生全員参加による実演、演奏担当者と講師の対話。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験/学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. 授業オリエンテーション(初回に演奏担当者を決めるので、予め希望曲を考えておくこと)

事前学習	ブラームスの作品を調べておくこと	時間	45 分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分

2. ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分

3. ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分

4. ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45 分

5.ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

6.ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

7.ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

8.ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

9.ピアノ四重奏曲第1番 g-Moll op. 25

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

10.ブラームスのオーケストラ作品

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

11.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第1、第2楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

12.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第1、第2楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

13.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第1、第2楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

14.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第1、第2楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分

15.まとめ

事前学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分
事後学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第3、第4楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

2.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第3、第4楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

3.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第3、第4楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

4.ピアノ四重奏曲第2番 A-Dur op. 26 (第3、第4楽章)

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

5.ブラームスの連弾作品

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

6.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

7.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

8.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

9.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

10.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

11.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

12.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分

13.ピアノ四重奏曲第3番 c-Moll op. 60

事前学習	授業で取り上げる作品の楽譜を読むこと	時間	45分
事後学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分

14.まとめ

事前学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分
事後学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分

15.発表会

事前学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分
事後学習	学んだ作品について継続して理解を深めること	時間	45分

【オフィスアワー】

月曜日 11:50-12:40 仙川教員室

【教材】

楽譜は各自入手のこと

<参考書>

リッツマン編・原田光子編訳:クララ・シューマン ヨハネス・ブラームス 友情の書簡(みすず書房) WR06-236

天崎浩二編訳・関根裕子共訳:ブラームス回想録集(音楽之友社) WR04-350、WR04-406、WR04-450

西原稔:ブラームス(音楽之友社-作曲家・人と作品シリーズ) W18-655

三宅幸夫:ブラームス(新潮文庫-カラー版作曲家の生涯) W18-570

シューマン・吉田秀和訳:音楽と音楽家(岩波文庫) W18-825

前田昭雄:シューマニアーナ(春秋社) U03-542

作品分析特講 C(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	鈴木 輝昭 教授		曜日時限	火 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

<前期>合唱作品の研究/分析を实践する。単旋聖歌からルネサンスに至るポリフォニー作品(ミサ、モテト、マドリガル)の流れを研究しながら、近現代の合唱作品を俯瞰する。合唱形態の様々な在り方を解説しながら、具体的な方法論、和声、対位法との関係性を明らかにしてゆく。受講生には、作品分析のプレゼンテーション、レポートが課せられる。

<後期>前期の授業に引き続き、後期では、同時代邦人の作品を中心に分析、研究を行う。20 世紀以降の語法、書法、表現、合唱形態の様々な在り方を解説し、具体的な方法論、和声、対位法との関係性を明らかにしてゆく。また、母国語と合唱、広くは音楽そのものとの関係を追求する。受講生には、作品分析のプレゼンテーションとレポートが課せられる。

【到達目標】

伝統的な合唱音楽の成立を知り、また分析を通して、幅広い音楽の教養を身につけ、実際の和声感覚が演奏や創作に活かせるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

修士 1 年～

【授業の形式】

【対面】講義、演習。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
60%		40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス。西欧社会における音楽の起源を、合唱音楽という視点から俯瞰して解説する。

事前学習	シラバスに記載された内容を可能な範囲で予め調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45 分

2.初期キリスト教音楽。ユダヤ教の音楽。

ミサについての解説。

事前学習	シラバスに記載された内容を可能な範囲で予め調べておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

3.単旋聖歌(グレゴリオ聖歌)とネウマ譜、四角譜についての解説。

事前学習	シラバスに記載された内容を可能な範囲で予め調べておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。課題の実施。	時間	45分

4.単旋聖歌、四角譜から五線譜への翻訳。

現代の記譜へのリアライズの試み。

事前学習	課題が検証できるよう、提出の準備をしておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。課題の実施。	時間	45分

5.旋法、Mode 和声の解説。

ゴシック期の音楽。レオニヌス、ペロティヌスの作品。

課題の検証。

事前学習	課題が検証できるよう、提出の準備をしておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。課題の実施。	時間	45分

6.通作ミサの誕生。

ギヨーム・ド・マショー「ノートルダムミサ曲」解説。

課題の検証。

事前学習	課題が検証できるよう、提出の準備をしておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。課題の実施。	時間	45分

7.ルネサンスポリフォニーの音楽1。

デュファイ、オケゲムによる循環ミサの考察。

課題の検証。

事前学習	ポリフォニー楽曲について、事前に分析を試みること。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

8.ルネサンスポリフォニーの音楽2。

ジョスカン・デ・プレの通模倣

「ミサ・パンジェ・リングア」分析。

事前学習	ポリフォニー楽曲について、事前に分析を試みること。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

9.ルネサンスポリフォニーの音楽3。

パレストリーナの様式。

「教皇マルチエリスのミサ」分析。

事前学習	ポリフォニー楽曲について、事前に分析を試みること。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

10.初期バロックの宗教曲。

モンテヴェルディ「聖母マリアの夕べの祈り」を考察。

事前学習	バロックの宗教曲について、予め分析を試みること。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

11.バロックの宗教曲。

J.S.バッハ「ロ短調ミサ」考察と分析。

事前学習	バロックの宗教曲について、予め分析を試みること。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

12. 諸外国の近現代作品の研究。

新たな語法と音素材の試みを展望する。

バーバー「アニュス・デイ」分析。

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

13. 諸外国の近現代作品の研究。

O.メシアン「O Sacre Convivium」分析。

ステイーブ・ライヒ「テヒルーム」

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

14. 諸外国の近現代作品の研究。

アルヴォ・ペルト「マニフィカート」

ジョルジ・リゲティ「ルクス・エテルナ」分析。

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

15. 授業の総括。学習到達度の確認。

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	自身の今後の音楽活動において、学んだ内容を以下に活かして行くかを考察しておくこと。	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1. ガイダンス。後期授業の展望についての概説。

合唱音楽の様々な形態。

事前学習	シラバスに記載された内容を可能な範囲で予め調べておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

2. 16世紀以降、ルネサンス期のマドリガル。

トーマス・モーリーカルロ・ジェズアルド諸作品の研究。

事前学習	シラバスに記載された内容を可能な範囲で予め調べておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

3. フランス近代のマドリガル。

Debussy「Trois Chanson」

アナリーゼ1

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

4. フランス近代のマドリガル。

Debussy「Trois Chanson」

アナリーゼ2

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

5.フランス近代のマドリガル。

M.Ravel「Trois Chanson」

アナリーゼ。

事前学習	諸外国の近現代合唱作品についての知識を、予め用意しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

6.母国語による声楽法、発声と発音の諸問題の解説。日本歌曲を対象とする分析、研究。

三善晃「抒情小曲集」

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

7.母国語による声楽法、発声と発音の諸問題の解説。邦人作品合唱曲の研究。

三善晃「麦藁帽子」分析。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

8.母国語による声楽法、発声と発音の諸問題の解説。邦人作品合唱曲の研究。

三善晃「やがて秋」分析。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

9.邦人作曲家による様々な合唱作品の分析、研究。

柴田南雄「追分節考」検証。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

10.邦人作曲家による様々な合唱作品の分析、研究。

間宮芳生「合唱のためのコンポジション:オンゴーオー二」検証。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

11.邦人作曲家による様々な合唱作品の分析、研究。

武満徹「風の馬」細川俊夫「アヴェ・マリア」検証。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

12.邦人作曲家による様々な合唱作品の分析、研究。

八村義夫「アウトサイダー愛の園」検証。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

13.邦人作曲家による様々な合唱作品の分析、研究。

三善晃「変化嘆詠」検証。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

14.邦人作曲家による様々な合唱作品の分析、研究。

鈴木輝昭「道成寺縁起」「オーダエ・カルミヌム」検証

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業において学んだ事柄を復習し、レポートにまとめておくこと。	時間	45分

15.授業の総括。学習到達度の確認。

事前学習	邦人作曲家の合唱作品を、予め研究しておくこと。	時間	45分
事後学習	自身の今後の音楽活動において、学んだ内容を以下に活かして行くかを考察しておくこと。	時間	45分

【オフィスアワー】

火曜日 4限後 仙川教員室

エディション研究特講(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	佐藤 康太 講師		曜日時限	木 2時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

＜エディション研究＞

この授業では作品のさまざまな校訂楽譜を比較してその違いを理解し、その違いがどのような理由で生まれているのかを考える。前期は既存のエディションを比較することが授業の中心になるが、単に比較してその違いを明らかにするだけでなく、批判版楽譜の校訂報告を読み、さらに自筆譜などの源泉史料を参照することで、なぜ校訂者がその判断を下したのか、そしてそれが演奏および楽曲解釈にどのような影響を及ぼすかを考察する。後期は前期の経験を踏まえ、実際に批判版楽譜の校訂を共同で行う。校訂作品は 18 世紀前半～19 世紀初頭に書かれた作品のうち、現在批判版楽譜が存在しないものを基本的に選定し、初回授業で話し合いの上決定する。今年度は 18 世紀ドレスデン宮廷の器楽コレクションである「第二書架 Schrank II」の中から選定予定だが、変更する可能性もある。最終的には、校訂した楽譜本体と校訂報告を提出する。

前期と後期で大きく内容が異なるため、それぞれ単独での履修も可能。なお学部との共同授業のため、基礎的な内容の復習も含む。

【到達目標】

校訂楽譜の成立過程をさまざまな事例と実習で理解することによって、学生自らが研究や演奏に用いる楽譜の選び方、およびそれに対する批判的な見方を身につける。発表とそれに伴う議論および共同での校訂作業を通して、集団での議論の仕方とチームでの作業の進め方を身につける。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。

【授業の形式】

演習

前期はこちらで用意したエディションをその場で比較した上でのディスカッション、後期は各回の担当者が楽譜を作ってきた楽譜を見た上でのディスカッションが中心となる。

後期は実際にスコアを作成するので、パソコンと楽譜入力ソフトがあると作業が楽になる部分もある(必須ではない;無料のソフトウェアであれば MuseScore を推奨。教員は Sibelius を使用。)

校訂報告の表の作成には Microsoft Word あるいは Google document を用いる。また源泉史料は基本的にデジタル化されたものを使うので、細部を拡大してみられるように、ノートパソコンやタブレットなどがあると便利。最終提出は電子上で行う予定。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。前期に関しては授業内で課される課題を提出課題 60%として扱い、後期に関しては最終提出される楽譜および校訂報告を 60%とする。前後期共に授業内での発言およびプレゼンを受講姿勢 40%として評価する。また 5 回以上の欠席は単位放棄と見なす。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題についてはその都度授業内でフィードバックを行う。後期の楽譜および校訂報告については教員が添削し、Classroom 上あるいはメールで返却する。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション、さまざまな楽譜の種類とその名称

事前学習	自分の手元にある楽譜について、どんな種類があるか考えてくる	時間	45 分
事後学習	自分の手元にある楽譜について、授業内容を踏まえてそれがどのような楽譜か分類する	時間	45 分

2. 楽譜の選択と演奏スタイル:T. A. ヴィターリ《シャコンヌ》を例に

事前学習	ヴィターリ《シャコンヌ》に関して、音源を複数探して聴いておく	時間	30 分
事後学習	授業内容を踏まえて自身の演奏スタイルと選択すべき楽譜について、具体的な作品をもとに考えてまとめる	時間	60 分

3. 批判版楽譜の内容と校訂報告の構成

事前学習	授業内で扱ってほしい作品を選んでおく	時間	20 分
事後学習	図書館で全集楽譜の校訂報告を確認し、校訂報告の構成要素を確認する	時間	70 分

4. 以下対象作品は一例。学生のリクエストに応じて変更する可能性がある。基本的に2回の授業で1曲に取り組んでいく。

実例分析① シューマン《ダヴィデ同盟舞曲集》Op. 6

事前学習	《ダヴィデ同盟舞曲集》音源を聴き、成立事情を簡単にまとめておく	時間	60 分
事後学習	シューマン全集の楽譜のメリットとデメリットを考える	時間	30 分

5. 「最終稿」をどう捉えるか

事前学習	《ダヴィデ同盟舞曲集》初版と改訂版がどのように違うか、全集を見て確認しておく。	時間	45 分
事後学習	複数の稿が存在する作品に関して、自分が演奏する際にどのような選択をするか具体的な比較を元に考える	時間	45 分

6. 実例分析② ベートーヴェン ピアノソナタ 第 15 番 ニ長調 Op. 28

事前学習	対象作品の第1楽章を聴き、形式を理解しておく	時間	30 分
事後学習	ヘンレの全集とデル・マーによるベーレンライター版を比較し、それぞれの違いがどのような演奏の違いを生むか考える	時間	60 分

7. 初版譜と自筆譜の史料評価

事前学習	ヘンレの全集とベーレンライター版を比較して、その違いがどういった史料の違いに由来するか考えておく	時間	45 分
事後学習	初版譜とベートーヴェンの自筆譜にもう一度目を通し、校訂された楽譜との違いを確認する	時間	45 分

8. 実例分析③ メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲 第 2 番 ハ短調 Op. 66

事前学習	対象曲の第1楽章を聴き、形式を理解しておく	時間	30 分
事後学習	メンデルスゾーンの自筆譜にもう一度目を通し、どこにどのような修正が施されているか確認する	時間	60 分

9.12月31日まで働くメンデルスゾーン:作曲家の個性、作品の成立過程と史料評価

事前学習	メンデルスゾーンの伝記を確認し、その個性を理解しておく	時間	45分
事後学習	作曲者の個性がエディション作成に当たってどのように影響しうるか、他の作曲家で考える	時間	45分

10.実例分析④ リヒャルト・シュトラウス 『「蓮の葉」による6つの歌曲』 Op. 19

事前学習	対象曲を聴き、成立事情を簡単にまとめておく	時間	45分
事後学習	リヒャルト・シュトラウス全集のHPから校訂報告の内容を確認しておく。 https://www.richard-strauss-ausgabe.de/	時間	45分

11.Handexemplar: 作曲者自身による演奏解釈

事前学習	全集楽譜にイタリックで書き込まれた内容を確認し、それにどのような意図があるのか確認しておく	時間	60分
事後学習	Handexemplar に書き込まれた指示を自分だったら採用するかどうか考える	時間	30分

12.実例分析⑤ バッハ《無伴奏チェロ組曲 第一番 ト長調》

事前学習	対象作品を聴き、新全集版に目を通しておく	時間	45分
事後学習	新全集版に収録された2つの稿を綿密に比較し、その違いを確認する	時間	45分

13.自筆譜が存在しない場合の史料評価と校訂方法

事前学習	新全集改訂版とSynopsisに目を通しておく	時間	45分
事後学習	新全集改訂版の校訂方針について改めて楽譜を見ながら考える	時間	45分

14.実例分析⑥ ドビュッシー《沈める寺》

事前学習	全集版に目を通し、オシアの意味を考えておく	時間	45分
事後学習	音源を聴きながら全集版に目を通し、オシアとの違いを確認し、その意図を考える	時間	45分

15.作曲者自身による録音史料の評価

事前学習	作品を演奏する際、自身がどの程度楽譜から離れるか考えておく	時間	45分
事後学習	ドビュッシーの演奏内容を自身の演奏に取り入れるかどうか考える	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1.イントロダクション:校訂作品と分担の決定

事前学習	さまざまな校訂楽譜の種類について復習しておく	時間	45分
事後学習	分担部分の源泉史料に目を通しておく	時間	45分

2.作曲家、作品の概要とその意義

事前学習	対象作品の作曲家について音楽事典で調べておく	時間	45分
事後学習	対象の作曲家の他の作品の音源を探して聴く	時間	45分

3.既存のエディションと原典史料の把握;序文と校訂報告の内容

事前学習	批判版の楽譜以外に何が書いてあるのか確認しておく	時間	45分
事後学習	序文に何を書くか考えてまとめておく	時間	45分

4.RISMによる史料検索とその記述:印刷楽譜&手稿譜

事前学習	歴史的な楽譜にはどのような種類があるか考えておく	時間	30分
事後学習	対象史料を記述する	時間	60分

5.とにかく楽譜を作ってみる;校訂方針の策定

事前学習	楽譜を作ってくる	時間	60分
事後学習	校訂方針のそれぞれの項目について、メリットとデメリットを考える	時間	30分

6.校訂実践と問題点の議論①(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

7.校訂実践と問題点の議論②(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

8.校訂実践と問題点の議論③(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

9.校訂実践と問題点の議論④(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

10.校訂実践と問題点の議論⑤(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

11.校訂実践と問題点の議論⑥(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

12.校訂実践と問題点の議論⑦(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめてくる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所へ決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

13.校訂実践と問題点の議論⑧(学生による発表)

事前学習	担当者:楽譜を作って議論点をまとめる 担当者以外:該当史料に目を通し、校訂上の問題点を考えておく	時間	60分
事後学習	担当者:議論内容を踏まえて、問題箇所を決断を下す 担当者以外:議論を踏まえて、自身の校訂箇所に似たような問題がないかチェックする	時間	30分

14.全体のチェック、レイアウトニング

事前学習	臨時記号の配置、改行、改ページ箇所を考えておく	時間	45分
事後学習	授業を踏まえて全体の校訂の整合性をチェックする	時間	45分

15.まとめ:批判版楽譜との付き合い方

事前学習	校訂経験を踏まえて、どのように批判版楽譜を読むか考えておく	時間	30分
事後学習	最終提出の準備をする	時間	60分

【オフィスアワー】

火曜 12:40-13:40、仙川教員室。

それ以外の曜日時間に関してはメールでアポイントメントを取ること。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

参考図書

ジェイムズ・グリーア『楽譜の校訂術：音楽における本文批判：その歴史・方法・実践』、高久桂訳、道と書院、2023年。

Editionsrichtlinien Musik, hrsg. von Bernhard R. Appel und Joachim Veit unter Mitarbeit von Annette Landgraf, Kassel: Bärenreiter 2000.

Reinhard Keiser, Almira, hrsg. von Kota Sato, Mai Koshikakezawa und Hansjörg Drauschke, Beeskow: ortus 2018.

原書講読(英)(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	大津 聡 講師		曜日時限	金 2 時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

当該授業は、英語で書かれた音楽文献の講読である。従って、単なるテキストの読解ではなく、音楽(作品)や音楽家、あるいはそれに関連するテーマを深く読み解くことが求められる。テキストには、新しく、また専攻を問わず重要と思われる音楽文献を考えている。受講予定者は必ず初回ガイダンスに出席すること。

【到達目標】

英語で書かれたテキストを、自らの研究や調査、興味を深めるために使うことが出来るようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。

【授業の形式】

演習(輪読形式)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
70%		30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、学期末に行う授業内試験(提出課題等)、各授業内の講読内容、発言等(受講姿勢)について、それぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス(授業内容や方法の説明、テキストの配布他)

事前学習	シラバスの熟読と理解	時間	30分
事後学習	ガイダンスの内容を前提とした科目のプロフィールの理解、配布テキストの検証(履修の可否についての自己判断や受講意思の決定)	時間	60分

2.テキスト講読 1

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理(次回授業時に問うことがある)	時間	20分

3.テキスト講読 2

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

4.テキスト講読 3

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

5.テキスト講読 4

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

6.テキスト講読 5

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

7.テキスト講読 6

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

8.テキスト講読 7

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

9.テキスト講読 8

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

10.テキスト講読 9

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

11.テキスト講読 10

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

12.テキスト講読 11

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

13.テキスト講読 12

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

14.テキスト講読 13(オンライン)

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

15.テキスト講読 14

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	前期に扱ったトピックの整理	時間	20分

【授業展開と内容-後期】

1.後期のためのガイダンスとテキスト講読 1

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理(次回授業時に問うことがある)	時間	20分

2.テキスト講読 2

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

3.テキスト講読 3

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

4.テキスト講読 4

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

5.テキスト講読 5

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

6.テキスト講読 6

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

7.テキスト講読 7

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

8.テキスト講読 8

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

9.テキスト講読 9

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

10.テキスト講読 10

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

11.テキスト講読 11

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

12.テキスト講読 12

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

13.テキスト講読 13(オンライン)

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

14.テキスト講読 14

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	授業で扱ったトピックの整理	時間	20分

15.テキスト講読 15

事前学習	購読テキストの予習(関連事項や音源等の参照を含む)	時間	70分
事後学習	後期に扱ったトピックの整理	時間	20分

【オフィスアワー】

金曜日2限後、仙川教員室にて受け付ける。また、メールによる連絡も可能とする。

【テキスト】

1.Beethoven. A political artist in revolutionary times William Kindermann 2020年 978-0-226-66905-2

備考: The university of Chicago press, Chicago and London

価格は 35\$

【教材】

上記テキストを教材として、第一回授業時にコピーを配布する(教材は受講メンバー、学期によって変わることもある)。

【その他】

授業期間内、必要な連絡事項は、随時クラスルームを通して告知する。

原書講読(独)(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	佐藤 康太 講師		曜日時限	火 2 時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

ドイツ語で書かれた音楽書を輪読する。文法の復習をしつつ、長い文章を読むうえで必須となる読解能力を養う。特に多くの副文を含む複雑な文を、主語述語および関係詞の指すものを明確にしながらか読み練習を行う。前期は Michael Maul の Bach: Eine Bildbiographie (図版を多く含むバッハの伝記)から、いくつかの項目を抜粋で読む。後期に関しては履修者の専攻や興味に応じて文献を選ぶが、特に分析的な文章を読む予定である。ドイツ語の読解に加えて、内容に関するディスカッションを行う。

【到達目標】

複雑な文法構造を分析しつつ、正確にドイツ語の文章が読めるようになる。音楽書を読むうえで必要な語彙を身につける。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ドイツ語文法は一通り学習済みであることを前提とする。加えて、簡単な文章をすでに読んだ経験があることが望ましい。授業内で文法事項の復習はするが、一から教えることはしない(2年程度のドイツ語学習歴を想定)。不安な場合は初回到相談すること。なお学部・大学院共通授業となる。

【授業の形式】

演習(文献の講読およびディスカッション)。毎回指定された部分を訳してくること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	40%	60%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。各学期末に授業内で小テストを行い、それを40%で評価する。毎回の訳やディスカッションへの参加度を受講姿勢60%とする。各学期5回以上の欠席は単位放棄と見なす。

【課題に対するフィードバックの方法】

訳および授業内課題に関してはその都度授業内でフィードバックする。学期末の小テストに関しては、終了後に授業内で解説を行う。

【授業展開と内容-前期】**1. 文献紹介、講読箇所の設定、分担割り振り**

事前学習	バッハの生涯および代表的な作品について音楽事典で調べておく。	時間	45分
事後学習	決められたページをざっと読み、分からない単語や文構造にチェックを入れておく。	時間	45分

2. 講読とディスカッション①

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

3. 講読とディスカッション②

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

4. 講読とディスカッション③

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

5. 講読とディスカッション④

事前学習	ページ全体を読んだうえで特に自分の分担部分については訳を作成しておく	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

6. 講読とディスカッション⑤

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

7. 講読とディスカッション⑥

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

8. 講読とディスカッション⑦

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

9. 講読とディスカッション⑧

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

10. 講読とディスカッション⑨

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

11. 講読とディスカッション⑩

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

12. 講読とディスカッション⑪

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

13. 講読とディスカッション⑫

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

14. 講読とディスカッション⑬

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

15. 小テストとフィードバック

事前学習	前期に読んだ部分を見返し、要約を作っておく。	時間	60分
事後学習	フィードバックを受けて、改めて問題を解いて理解を確認する。	時間	30分

【授業展開と内容-後期】

1. 文献紹介、講読箇所決定、分担割り振り

事前学習	前期の内容を振り返り、複雑な文法事項を復習しておく	時間	45分
事後学習	決められたページをざっと読み、分からない単語や文構造にチェックを入れておく。	時間	45分

2. 講読とディスカッション①

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

3. 講読とディスカッション②

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

4. 講読とディスカッション③

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

5. 講読とディスカッション④

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

6. 講読とディスカッション⑤

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

7. 講読とディスカッション⑥

事前学習	ページ全体を読んだうえで特に自分の分担部分については訳を作成しておく	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

8.講読とディスカッション⑦

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

9.講読とディスカッション⑧

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

10.講読とディスカッション⑨

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

11.講読とディスカッション⑩

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

12.講読とディスカッション⑪

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

13.講読とディスカッション⑫

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

14.講読とディスカッション⑬

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

15.小テストとフィードバック

事前学習	後期に読んだ部分を見返し、要約を作っておく。	時間	60分
事後学習	フィードバックを受けて、改めて問題を解いて理解を確認する。	時間	30分

【オフィスアワー】

火曜 12:40-13:40、仙川教員室。

それ以外の曜日時間に関してはメールでアポイントメントを取ること。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

Michael Maul, Eine Bildbiographie, 2. Aufl., Leipzig: Lehmanns 2022. (前期テキスト; 必要な部分のみコピーを配布する。購入の必要はない。)

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ』、白水社、2003年。(文法事項をおさらいするのに便利な本。特に必須ではない。)

原書講読(仏)(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	永井 玉藻	曜日時限		木 2時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

19世紀以降にフランス語圏で活動した作曲家による、フランス語の執筆物(手紙や公演評など)を取り上げ、抜粋で講読する。事前に指定した課題文について、文法の解説を行うと同時に、文章が書かれた背景や関連する作品に関して、履修生に発表を行ってもらい、理解を深める。また、自筆史料との比較を通して、史料調査に関する基礎知識も紹介する。

【到達目標】

- ・フランス語の基礎文法を再確認し、欧州評議会レベル B1 以上相当の文章を読むことができるようになる。
- ・フランス語圏の作曲家や作品に関する知識を深める。
- ・デジタルアーカイブや AI ツールを利用した史料調査の基礎的スキルを習得し、適切に使いこなせるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

フランス語の読解については、最低でも1年間、一通りの初級文法事項を学んでいることを履修の前提とする。また、指定された課題や事前学習、授業内の課題実施に積極的に取り組み、授業を通して得た知識を自らの研究やレポート執筆に活用する意欲を持っていること。

【授業の形式】

講義を中心とするが、課題文に関連する事項に関して、各回、担当の履修者からプレゼンテーションを行なってもらう。また、フランス国立図書館のデジタルアーカイブ「Gallica」や、AI 古文書解読ツール「Transkribus」などを使用するため、ネットワーク環境下にあるスマートフォンやパソコン、タブレットなどを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験/学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション

事前学習	フランス語基礎文法の確認をしておく。	時間	45分
事後学習	指定された課題に取り組み、次週授業に備える。また各種データベースや AI ツールへの接続、基礎的な使用方法を確認する。	時間	45分

2.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

3.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

4.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む③

事前学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

5.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む④

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

6.ドビュッシーの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

7.ドビュッシーの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

8.ドビュッシーの書簡(自筆)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

9.ベルリオーズの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

10.ベルリオーズの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

11.ベルリオーズの書簡(清書済み)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

12.ベルリオーズの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

13.ベルリオーズの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

14.ベルリオーズの自伝を読む

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。	時間	45分
事後学習	文法事項と文章内容を復習する。	時間	45分

15.ベルリオーズの書簡(自筆)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション

事前学習	フランス語基礎文法の確認をしておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

2.ドビュッシーの評論集を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

3.ドビュッシーの評論集を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

4.ドビュッシーの評論集を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

5.フォーレの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

6.フォーレの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

7.フォーレの書簡(清書済み)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

8.フォーレの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

9.フォーレの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

10.フォーレの書簡(自筆)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

11.マスネの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

12.マスネの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

13.フランス国立公文書館のアーカイブ史料を読む

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。	時間	45分
事後学習	文法事項と文章内容を復習する。	時間	45分

14.マスネの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

15.マスネの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

【オフィスアワー】

木曜日 仙川教室にて、授業前後に時間を確保する。

【テキスト】

- 1.Claude Debussy: Lettres 1884-1918 Debussy, Claude 1980年 2705659188
- 2.Correspondance ; suivie de Lettres à madame H. / Gabriel Fauré ; recueillies, présentées et annotées par Jean-Michel Nectoux. Fauré, Gabriel 2015年 9782213687087
- 3.Le Musicien Errant, 1842-1852 / Hector Berlioz ; correspondance publiée par Julien Tiersot Berlioz, Hector 1919年

4.Massenet en toutes lettres / Anne Massenet. Massenet, Anne 2001 年 9782877064224

5.Monsieur Croche Debussy, Claude 2020 年 9782070711079

6.Mémoires Berlioz, Hector 2010 年 9782081250703

【教材】

上記テキストから抜粋した箇所を、Classroom を通して配布する。また、作曲家の自筆書簡などは、授業中に適宜データベースにアクセスして閲覧するほか、紙媒体も必要に応じて配布する。

【その他】

履修者のフランス語レベルチェック、各種使用ツールの確認のため、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。また、シラバス内容は、履修者の進捗や関心に応じて変更する可能性がある。

音楽文献研究(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	安田 和信 准教授	曜日時限		水 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

音楽文献や楽譜を探索するためのノウハウを学ぶ。音楽学の研究者のみならず、演奏家や作曲家にとっても氾濫する情報を整理することは極めて重要な作業である。この授業では、本学図書館所蔵の資料を実際に手に取りながら、様々な角度から情報収集と整理の方法を見ていきたい。紙媒体のみならず、インターネットによる文献探索等にも時間を割く予定。

【到達目標】

音楽文献の探索法を理解し、情報収集能力を高める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

修士 1 年～。特に修士論文を執筆予定の学生。

【授業の形式】

演習。

例年受講者の多い授業であるため、教室のキャパシティを超えた場合は履修制限をする可能性がある。

インターネットを活用した資料検索も積極的に取り上げるため、履修者はスマホやパソコンを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

原則として前回の課題について次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション(文献とは何か) & 作品目録その1

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

2.作品目録 1

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

3.作品目録 2

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

4.作曲家研究(Year Book/書簡集/ドキュメント/研究書)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

5.伝記記述(Bach/Mozart/Beethoven)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

6.伝記的ビブリオグラフィ(Bio-bibliography/A Guide to Research)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

7.音楽学文献(Allen/Laaber/Duckles/Marco)と音楽資料事典

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

8.Music Index/RILM/RIDM/RIPM

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

9.楽譜出版・全集の歴史

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

10.楽譜目録の歴史(Hofmeister=Whistling/Pazdirek)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

11.定期刊行物(雑誌)と On-line 論文・雑誌検索

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

12. 叢書楽譜

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

13. RISM の詳細

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

14. 音楽事典

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

15. 前期のまとめ

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	前期で学習した資料の活用方法についてしっかり復習をすること	時間	70 分

【授業展開と内容-後期】

1. 伝記的ビブリオグラフィ 1(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	70 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	20 分

2. 伝記的ビブリオグラフィ 2(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	70 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	20 分

3. RILM(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	70 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	20 分

4. 過去の楽譜出版 1(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

5. 過去の楽譜出版 2(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

6. 過去の楽譜出版 3(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20 分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70 分

7.過去の楽譜出版4(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

8.叢書楽譜(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

9.RISM 実習 1

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

10.RISM 実習 2

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

11.音楽資料事典(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

12.各国国立図書館等の所蔵の検索

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

13.過去の音楽事典1(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

14.現代の音楽事典2(実習)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

15.後期のまとめ

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

【オフィスアワー】

水曜 5 限後 調布にて時間を確保します

【教材】

原則として毎回、Classroom を通じて資料を配布する。参考書については授業内で指示する。

論文演習 A(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	沼野 雄司 教授		曜日時限	水 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

学部時代に「卒論」を書いていない学生を主な対象にして、修士論文の完成に向けて、初歩の初歩から、テーマ設定、構成、資料収集、書式などの指導を行う。

原稿用紙で百枚程度の論文を仕上げることは、経験のない学生にとってはとてつもなく困難なことに感じられるかもしれないが、しかし一定の手順を踏めば、それほど負担なしに誰でも修士論文を仕上げるのが可能である(例年、いくつものよい論文が提出されている)。卒論とは異なり、修士論文を提出すれば、社会に対しては当該の問題について専門家として認知されることになるし、大学等の教育機関に就職する場合にも大きな意味を持つことになる(また、将来、博士課程に進むことを希望する場合には論文提出は必須となる)。本クラスでは、個々の院生の興味・関心を土台にしなが、2週間に1回の全体クラス授業、そのほかの時間で個人指導を通して、クラス・メンバーが協力しあいながらチーム一丸となって「楽しく・前向きに」修士論文の完成を目指す。

【到達目標】

修士論文を完成させる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特にないが、週に3時間程度は研究時間を設けることが望ましい。

【授業の形式】

【対面】演習と個人指導

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション: 論文とは何か

事前学習	論文テーマについて考えておくこと	時間	30 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分

2. テーマ設定について1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分

3. テーマ設定について2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

4.仮の目次を作る1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

5.仮の目次を作る2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

6.文献の探し方1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

7.文献の探し方2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

8.コンストラクションを練る1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

9.コンストラクションを練る2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

10.書式の原則1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

11.書式の原則2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

12.小発表1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

13.小発表2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

14.補遺

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

15.まとめ

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

【授業展開と内容-後期】

1.後期のイントロダクション

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

2.発表1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

3.発表2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

4.発表3

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

5.発表4

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

6.発表5

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

7.発表6

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

8.発表7

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

9.発表8

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

10.発表9

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

11.発表10

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

12.発表11

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

13.発表12

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

14.補遺

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分

15.まとめ

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60分
------	----------------	----	-----

事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30分
------	----------------	----	-----

【オフィスアワー】

特に定めませんが、事前にメールでアポイントメント(numano@tohomusic.ac.jp)をとること。調布1号館 106号室

論文演習 B(a)(前期),(b)(後期)						
担当教員			安田 和信 准教授		曜日時限	金 4時限
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～	

【授業の概要】

修士論文を作成するために、音楽学の教員の立場から指導を実施する。特に前期の初めは各学生が取り組んでいる研究の経過についてクラスでプレゼンテーションをしながら、皆で議論を深めていくが、途中からは個人指導を中心にしていく予定である。

【到達目標】

修士論文完成

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし

【授業の形式】

演習および個人指導

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. 修士論文執筆に関する指導1

事前学習	論文のテーマについて考えをまとめておく	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

2. 修士論文執筆に関する指導2

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

3. 修士論文執筆に関する指導3

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

4. 修士論文執筆に関する指導4

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

5.修士論文執筆に関する指導5

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

6.修士論文執筆に関する指導6

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

7.修士論文執筆に関する指導7

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

8.修士論文執筆に関する指導8

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

9.修士論文執筆に関する指導9

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

10.修士論文執筆に関する指導 10

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

11.修士論文執筆に関する指導 11

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

12.修士論文執筆に関する指導 12

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

13.修士論文執筆に関する指導 13

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

14.修士論文執筆に関する指導 14

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

15.修士論文執筆に関する指導 15

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

【授業展開と内容-後期】**1.修士論文執筆に関する指導1**

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

2.修士論文執筆に関する指導2

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

3.修士論文執筆に関する指導3

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

4.修士論文執筆に関する指導4

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

5.修士論文執筆に関する指導5

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

6.修士論文執筆に関する指導6

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

7.修士論文執筆に関する指導7

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

8.修士論文執筆に関する指導8

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

9.修士論文執筆に関する指導9

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

10.修士論文執筆に関する指導 10

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

11.修士論文執筆に関する指導 11

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

12.修士論文執筆に関する指導 12

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

13.修士論文執筆に関する指導 13

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

14.修士論文執筆に関する指導 14

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

15.修士論文執筆に関する指導 15

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45分

【オフィスアワー】

金曜日 13:20-14:00 および 5 限後、調布。

論文演習 C(a)(前期),(b)(後期)

担当教員	佐藤 康太 講師	曜日時限	木 3 時限		
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

修士論文の作成指導を行います。個人指導を中心としますが、最初の数回は学術的な文章の書き方を演習形式で学びます。

【到達目標】

修士論文の完成。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。

【授業の形式】

演習および個人指導。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

その都度授業内でフィードバックを行う。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション: 学術的な文章とは

事前学習	自分のテーマを絞っておく。	時間	45 分
事後学習	自分の修士論文に必要な資料を考え、図書館で検索しておく。	時間	45 分

2. 文献検索、章立て

事前学習	修士論文の構成を考えておく。	時間	45 分
事後学習	章立てを作成する。	時間	45 分

3. 批判的な文献の読み方と引用の仕方

事前学習	自身のテーマに関わる文献を探しておく	時間	45 分
事後学習	自身の文献で引用例を作成し、注を付ける。	時間	45 分

4. 修士論文の執筆1

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

5. 修士論文の執筆2

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

6. 修士論文の執筆3

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

7.修士論文の執筆4

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

8.中間発表

事前学習	口頭発表のための資料等をそろえ、準備をする。	時間	60分
事後学習	他の学生からの意見を踏まえ、内容を再検討する。	時間	30分

9.章立て作成

事前学習	章立てを考えておく	時間	45分
事後学習	添削された内容を見て、章立てを再考する	時間	45分

10.修士論文の執筆6

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

11.修士論文の執筆7

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

12.修士論文の執筆8

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

13.修士論文の執筆9

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

14.修士論文の執筆10

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

15.執筆に際しての注意

事前学習	事前に配布される「論文の書き方」を熟読しておく。	時間	60分
事後学習	執筆順と夏休み中の作業工程を考える。	時間	30分

【授業展開と内容-後期】

1.修士論文の執筆1

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

2.修士論文の執筆2

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

3.中間発表

事前学習	口頭発表のための資料等をそろえ、準備をする。	時間	60分
事後学習	他の学生からの意見を踏まえ、内容を再検討する。	時間	30分

4.修士論文の執筆3

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

5.修士論文の執筆4

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

6.修士論文の執筆5

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

7.修士論文の執筆6

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

8.修士論文の執筆7

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

9.修士論文の執筆8

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

10.修士論文の執筆9

事前学習	口頭発表のための資料等をそろえ、準備をする。	時間	60分
事後学習	他の学生からの意見を踏まえ、内容を再検討する。	時間	30分

11.修士論文の執筆10

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

12.修士論文の執筆11

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

13.修士論文の執筆12

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

14.修士論文の執筆13

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

15.修士論文の執筆14

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45分

【オフィスアワー】

火曜 12:40-13:40、調布教員室。

それ以外の曜日時間に関してはメールでアポイントメントを取ること。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

R. J. ウィンジェル『音楽の文章術』、宮澤淳一・小倉真理訳、改定新版、春秋社、2014年。

作品分析特講 D(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	金子 仁美 講師		曜日時限	水 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

<20～21 世紀の音楽>

全コース生を対象とした選択科目で、受講生それぞれの専攻に焦点を当て、演習を行う。

導入としてフランス近代、新ウィーン楽派などを取り上げるが、特に事前の知識を必要としない(知識のある人も歓迎)。

演奏、作曲を志す私たちにとって、同時代の作品を知り演奏することは、過去の作品を演奏することと同等の意味を持つもの
と考える。

受講生それぞれの専攻に関する 20～21 世紀の動向を調べ、互いに発表することで視野を広げ、新たな音楽表現を積極的に
体験することを試みる。

それによって西欧古典の演奏にも現在形の光を当てることに繋げて行くことを展望する。

【到達目標】

前期は 20 世紀、後期は 21 世紀と分け、それぞれの時代で受講生の「お気に入り」の作曲家、作品に出会うことを目標とする。

また、20、21 世紀の音楽への造詣を深め、受講生が自ら現代表現の発信者となることを目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

大学院の全専攻生対象(作曲、演奏専攻それぞれ歓迎する)

【授業の形式】

【対面】演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(受講生と取り上げる作曲家や編成の相談をする)

事前学習	「今の音楽」に触れてみたいか考える。事前の知識は必要としない。知識がある人も歓迎する(それぞれのアプローチを準備している)	時間	45 分
事後学習	オリエンテーションを聞いて、履修するかを検討する。	時間	45 分

2.20 世紀の音楽について(1)概要1「ヨーロッパ」

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45 分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45 分

3.20 世紀の音楽について(2)概要2「日本、アメリカ」

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45 分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45 分

4.20 世紀の音楽について(3)新ウィーン楽派1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

5.20 世紀の音楽について(4)新ウィーン楽派2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

6.20 世紀の音楽について(5)フランスの作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

7.20 世紀の音楽について(6)フランスの作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

8.20 世紀の音楽について(7)ドイツの作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

9.20 世紀の音楽について(8)ドイツの作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

10.20 世紀の音楽について(9)イタリア、イギリス、北欧の作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

11.20 世紀の音楽について(10)イタリア、イギリス、北欧の作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

12.20 世紀の音楽について(11)アメリカの作曲家

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

13.20 世紀の音楽について(12)日本の作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

14.20 世紀の音楽について(13)日本(アジア)の作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

15. 研究した作品の演奏会

事前学習	研究内容をまとめた資料を、プログラムノートとして執筆。	時間	45分
事後学習	プログラムノートを提出(レポートとして評価する)。	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1. オリエンテーション

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

2.21 世紀の音楽について(1)概要

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

3.21 世紀の音楽について(2)フランスの作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

4.21 世紀の音楽について(3)フランスの作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

5.21 世紀の音楽について(4)ドイツの作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

6.21 世紀の音楽について(5)ドイツの作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

7.21 世紀の音楽について(6)イタリアの作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

8.21 世紀の音楽について(7)イタリアの作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

9.21 世紀の音楽について(8)イギリス、北欧の作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

10.21 世紀の音楽について(9)イギリス、北欧の作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

11.21 世紀の音楽について(10)アメリカの作曲家

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

12.21 世紀の音楽について(11)アジアの作曲家

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

13.21 世紀の音楽について(12)日本の作曲家1

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

14.21 世紀の音楽について(13)日本の作曲家2

事前学習	取り上げる作品を事前に視聴し、概要を把握すること。	時間	45分
事後学習	演習で扱った作品の復習。	時間	45分

15. 研究した作品の演奏会

事前学習	研究内容をまとめた資料を、プログラムノートとして執筆。	時間	45分
------	-----------------------------	----	-----

事後学習	プログラムノートを提出(レポートとして評価する)。	時間	45分
------	---------------------------	----	-----

【オフィスアワー】

水曜日 4限後 調布教員室

作品分析特講 F(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	池田 哲美 講師		曜日時限	月 5 時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

1890～1910 年のおよそ 20 年の間に、芸術・文化など様々なジャンルで、これまでの価値観を覆す新たなパラダイム(文化の枠組み)の認識が生まれる。それは近代-モダンの限界と崩壊とともに訪れ、文化全体の根底を揺るがすこととなる。音楽の背景にある思潮とその影響を、文化全体の問題として捉えるとともに、その後の 20 世紀の歩みを鑑みつつ、具体的な音楽作品を分析を通して考究する。

【到達目標】

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての音楽作品を、そしてその背景にある文化的特徴を知ることができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

全学生対象ではあるが、作品分析のための和声的知識が必要となる

【授業の形式】

講義形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
60%	20%	20%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験/学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.19 世紀末から 20 世紀初頭の作品の概要 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50 分

2.19 世紀末から 20 世紀初頭の作品の概要 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50 分

3.ブラームス・ドヴォルジャークの作品 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること	時間	50 分

4.ブラームス・ドヴォルジャークの作品 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

5.マーラーの交響曲その1 第一番『巨人』1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

6.マーラーの交響曲その2 第一番『巨人』2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

7.マーラーの交響曲その3 第三番 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

8.マーラーの交響曲その4 第三番 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか考えること。	時間	50分

9.マーラーの交響曲その4 第三番 3

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

10.マーラーの交響曲その6 第五番 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

11.マーラーの交響曲その7 第五番 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

12.マーラーの交響曲その9 第7番 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

13.マーラーの交響曲その9 第7番 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

14.マーラーの交響曲その10 第9番 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
------	----------------------	----	-----

事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分
------	--------------------------------------	----	-----

15.マーラーの交響曲その10 第9番2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

【授業展開と内容-後期】

1.R.シュトラウスの作品 その1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

2.R.シュトラウスの作品 その2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

3.シェーンベルクの作品 その1 器楽曲

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

4.シェーンベルクの作品 その2 室内楽

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

5.シェーンベルクの作品 その3 室内楽

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

6.シェーンベルクの作品 その4 オーケストラ作品 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

7.シェーンベルクの作品 その5 オーケストラ作品 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

8.ベルクの作品 その1 器楽曲

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

9.ベルクの作品 その2 オペラ 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
------	----------------------	----	-----

事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分
------	--------------------------------------	----	-----

10.ベルクの作品 その2 オペラ 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

11.ベルクの作品 その2 オペラ 3

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

12.ベルクの作品 その2 オペラ 4

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

13.ウェーベルンの作品 1

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

14.ウェーベルンの作品 2

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

15.ストラヴィンスキーの作品

事前学習	授業内で指示した内容を予習しておくこと。	時間	40分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	50分

【オフィスアワー】

仙川教室にて授業前後に時間を確保します。

博士共同研究 I (a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	沼野 雄司 教授		曜日時限		
実施キャンパス	調布	単位	各1単位	対象年次	博士1年～

【授業の概要】

この演習は、主に英語の文献を読みながら、音楽学をめぐる問題について参加者全員で活発な議論を行ない、理解を深めることを目的としている。英語の文献はちょっと・・・という人も多いかと想像するが、近年は「DeepL」などの翻訳マシンの精度がかなりあがっており(翻訳ソフトを使うことは何も問題ない。むしろこれからはソフトを使いこなすことが必須になってくるはず)、こうしたツールを使って論文を読むことは十分に可能である。いずれにしても、これからの時代、音楽家であってもある程度の

英語講読の力は不可欠であるから、まずは「慣れる」ところからはじめてみたい。

議論の中心になる文献は、参加者の意向をも配慮しながら最終的に決定するが、現時点で予定しているのは、1980年代以降の音楽。一般の「現代音楽史」は、たいてい1970年代から80年代でその記述を終えているが、しかし現在、そこからおよそ50年ほどが経っている。そう考えてみると、この間の創作を知らないことがどれほど「ヘン」かが分かるだろう。ゆえに、英語の最新文献を読みながら内容を皆でシェアし、議論できたらと考えている。現代音楽にかんする予備知識は必要ないので、どのような専攻の学生も、積極的に参加してほしい。まずは怖がらずに初回の授業をのぞいてみてほしい。興味と意欲があるならば大丈夫！

【到達目標】

自分の頭で考えた意見を積極的に開陳できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特にないが、最低限の英語の知識は必要かもしれない(不安な学生は相談されたい)。

【授業の形式】

【対面】演習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, Dで評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.イントロダクション

事前学習	シラバスをよく読んでおくこと	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

2.文献1

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

3.文献2

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

4.文献3

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

5.文献4

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

6.文献5

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

7.文献6

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

8.文献7

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

9.文献8

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

10.文献9

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

11.文献10

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

12.文献11

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

13.文献12

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

14.文献13

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

15.まとめ

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

【授業展開と内容-後期】**1.後期のイントロダクション**

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

2.文献14

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

3.文献15

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

4.文献16

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

5.文献17

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

6.文献18

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

7.文献19

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

8.文献20

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

9.文献21

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

10.文献22

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

11.文献23

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

12.文献24

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

13.文献25

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

14.文献26

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

15.まとめ

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

【オフィスアワー】

メールでアポイントをとること(numano@tohmusic.ac.jp)。 場所:調布1号館 106号室

博士共同研究Ⅱ(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員		沼野 雄司 教授		曜日時限	
実施キャンパス		調布		単位	各1単位
				対象年次	博士1年～

【授業の概要】

この演習は、主に英語の文献を読みながら、音楽学をめぐる問題について参加者全員で活発な議論を行ない、理解を深めることを目的としている。英語の文献はちょっと・・・という人も多いかと想像するが、近年は「DeepL」などの翻訳マシンの精度がかなりあがっており(翻訳ソフトを使うことは何も問題ない。むしろこれからはソフトを使いこなすことが必須になってくるはず)、こうしたツールを使って論文を読むことは十分に可能である。いずれにしても、これからの時代、音楽家であってもある程度の英語講読の力は不可欠であるから、まずは「慣れる」ところからはじめてみたい。

議論の中心になる文献は、参加者の意向をも配慮しながら最終的に決定するが、現時点で予定しているのは、1980年代以降の音楽。一般の「現代音楽史」は、たいてい1970年代から80年代でその記述を終えているが、しかし現在、そこからおよそ50年ほどが経っている。そう考えてみると、この間の創作を知らないことがどれほど「ヘン」かが分かるだろう。ゆえに、英語の最新文献を読みながら内容を皆でシェアし、議論できたらと考えている。現代音楽にかんする予備知識は必要ないので、どのような専攻の学生も、積極的に参加してほしい。まずは怖がらずに初回の授業をのぞいてみてほしい。興味と意欲があるならば大丈夫！

【到達目標】

自分の頭で考えた意見を積極的に開陳できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特にないが、最低限の英語の知識は必要かもしれない(不安な学生は相談されたい)。

【授業の形式】

【対面】演習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション

事前学習	シラバスをよく読んでおくこと	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

2. 文献1

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

3. 文献2

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

4. 文献3

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

5. 文献4

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

6.文献5

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

7.文献6

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

8.文献7

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

9.文献8

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

10.文献9

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

11.文献10

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

12.文献11

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

13.文献12

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

14.文献13

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

15.まとめ

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

【授業展開と内容-後期】**1.後期のイントロダクション**

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

2.文献14

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

3.文献15

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

4.文献16

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

5.文献17

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

6.文献18

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

7.文献19

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

8.文献20

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

9.文献21

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

10.文献22

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

11.文献23

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

12.文献24

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

13.文献25

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

14.文献26

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

15.まとめ

事前学習	あらかじめ文献を精読すること	時間	60分
事後学習	扱った文献を再読すること	時間	30分

【オフィスアワー】

メールでアポイントをとること(numano@tohomusic.ac.jp)。 場所:調布1号館 106号室

総合科目

目次

博士総合演習 A(a)(前期)	1	21
博士総合演習 A(b)(後期)	3	博士総合演習[楽書原典研究](a)(独)(前期),(b)(独)(後期)	
博士総合演習 B(a)(前期)	5	25
博士総合演習 B(b)(後期)	7	博士総合演習[楽書原典研究](a)(仏)(前期),(b)(仏)(後期)	
博士総合演習 C(a)(前期)	9	29
博士総合演習 C(b)(後期)	11	博士総合演習[音楽資料研究](前期)	33
博士総合演習 D(a)(前期),(b)(後期)	14	博士総合演習 E I [作曲法研究](集中)	36
博士総合演習[音楽文化研究](a)(前期),(b)(後期)	18	博士総合演習 E II [作曲法研究](集中)	37
博士総合演習[楽書原典研究](a)(英)(前期),(b)(英)(後期)			

博士総合演習 A(a)(前期)					
担当教員	土田 英介 教授		曜日時限	水 4 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

バッハから近代までの西洋音楽の歴史とともに、スタイルの違い、共通点を考えていく。

【到達目標】

それぞれのスタイルの認識とともに、学生 1 人 1 人が個と普遍を意識するようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

大学院生のみとなる。2023 年度の「作品分析特講 C」と共通する所は多いが、皆さんに考え演奏してもらう事を主体としたい。ですから、和声力、分析力が必要となる。

【授業の形式】

講義と演習。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ウィーン古典派のソナタ形式について。

事前学習	今までに経験した古典派のソナタ形式で書かれた楽章について復習してくること。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

2.ウィーン古典派のソナタ形式の確立について

各自バッハ平均律クラヴィーア曲集第 2 巻の楽譜を持ってくること。

事前学習	バッハ平均律クラヴィーア曲集第 2 巻からウィーン古典派のソナタ形式に近いプレリュードを探してくる事。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

3.ハイドン、ピアノソナタ Fdur Hob.XVI/29 第 1 楽章と Adur Hob./26 第 1 楽章について。

事前学習	ハイドンの作品の経験したものを、復習してくること。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

4.ハイドン、ピアノソナタ Esdur Hob./49 第 1 楽章について。

事前学習	ハイドン、ピアノソナタ Esdur Hob./49 第 1 楽章について考えてくる事。	時間	45 分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45 分

5.ハイドン、弦楽四重奏曲GDur Op.76-1 第1楽章について。

事前学習	ハイドン、弦楽四重奏曲GDur Op.76-1 第1楽章の楽譜を見てくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

6.モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第1楽章について。

事前学習	モーツァルトの作品の経験したものを、復習してくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

7.モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第2楽章について。

事前学習	モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第2楽章について楽譜を見てくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

8.モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第3楽章について。

事前学習	モーツァルト、ピアノソナタ K570、ヴァイオリンソナタ K570 第3楽章について楽譜を見てくること。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

9.ベートーヴェンの書式について 1

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

10.ベートーヴェンの書式について 2

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

11.ベートーヴェンの書式について 3

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

12.ベートーヴェン、弦楽四重奏曲第3番 DdurOp.18-3 第1楽章について。

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

13.ベートーヴェン、ピアノソナタ第31番 Asdur 第1, 2楽章について。

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

14.ベートーヴェン、ピアノソナタ第31番 Asdur 第3楽章について。

事前学習	ベートーヴェンの書式について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業の内容を理解すること。	時間	45分

15.復習とまとめ、通奏低音について。

事前学習	前期の内容を整理してくる事	時間	45分
事後学習	後期に向けて通奏低音について考えること。	時間	45分

【オフィスアワー】

水曜 4限後、調布教員室

【教材】

適宜に資料を配ることもあるが、名曲ばかりなので、楽譜は各自用意すること。

【その他】

当たった学生に分析、演奏をしてもらうため、授業開始時間の30分前からは教員室で待機している、皆さんに配る資料等をコピーします。

博士総合演習 A(b)(後期)					
担当教員	土田 英介 教授	曜日時限		水 4 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

バッハから近代までの二重奏ソナタ、室内楽を考えていく。前期と同じように演奏と分析を大学院の学生にやってもらいたく思う。

【到達目標】

それぞれのスタイルに対して考え、表現する視点を得られるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

和声力は勿論、分析力も必要となる。

【授業の形式】

講義と演習。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1.通奏低音について。

バッハ、フルート・ソナタ EdurBWV1035 第 1 楽章。

事前学習	作曲の学生は、Realisation を考え、演奏してくる事。	時間	45 分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45 分

2.通奏低音について。

バッハ、フルート・ソナタ EdurBWV1035 第 1 楽章。

事前学習	作曲の学生は、Realisation を考え、演奏してくる事。	時間	45 分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45 分

3.シューマン、ヴァイオリンソナタ第 1 癌 a moii Op.105 第 1 楽章について。

事前学習	シューマン、ヴァイオリンソナタ第 1 癌 a moii Op.105 第 1 楽章の楽譜を見てください。	時間	45 分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45 分

4.シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第2楽章について。

事前学習	シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第2楽章の楽譜を見てください。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

5.シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第3楽章について。

事前学習	シューマン、ヴァイオリンソナタ第1巻 a moii Op.105 第3楽章の楽譜を見てください。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

6.ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第1楽章について。ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第1楽章について。

事前学習	ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第1楽章について、ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第1楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

7.ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第2楽章について。ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第2楽章について。

事前学習	ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第2楽章について、ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第2楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

8.ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第3楽章について。ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第3楽章について。

事前学習	ブラームス、ヴァイオリンソナタ(クラリネットソナタ)第2番 Esdur Op.120-2 第3楽章について、ヴァイオリンの学生がいない場合は、ヴァイオリンソナタ第2番 Adur Op.100 第3楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

9.フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第1楽章について。

事前学習	フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第1楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

10.フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第2楽章について。

事前学習	フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第2楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

11.フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第3楽章について。

事前学習	フォーレ、ピアノトリオ dmoll Op.120 第3楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

12.ドビュッシーの書式について。

事前学習	ドビュッシーの経験した曲を、復習してください。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

13.ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第1楽章,第2楽章について。

事前学習	ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第1楽章,第2楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

14.ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第2楽章,第3楽章について。

事前学習	ドビュッシー、ヴァイオリンソナタ第2楽章,第3楽章について考えてくる事。	時間	45分
事後学習	授業でやった内容を理解すること。	時間	45分

15.まとめと復習

事前学習	後期の内容を整理してくる事。	時間	45分
事後学習	後期の内容ををそれぞれ自分の事として、受け止めること。	時間	45分

【オフィスアワー】

水曜4限後、調布教員室。

【教材】

適宜に資料を配ることもあるが、名曲ばかりなので各自楽譜を用意する事。

【その他】

当たった学生に分析、演奏をしてもらうため、授業開始時間の30分前からは教員室で待機している、皆さんに配る資料等をコピーします。

博士総合演習 B(a)(前期)					
担当教員	佐藤 岳晶 講師		曜日時限	金 5時限	
実施キャンパス	調布	単位	1単位	対象年次	博士1年～

【授業の概要】

<音、身体、異文化のエクリチュール>

自らとは異なるエクリチュール・技法を有する他者の表現世界との出会いがもたらすものについて、音、言葉、身体の観点から考える。特に西洋音楽を専門とする者が、非西洋音楽を理解すること、そこから触発されるものについて、ここでは日本の伝統音楽・芸能へのアプローチを主な議題として検討する。異文化理解についての主要な先行研究と問題系を押さえつつ、表現という総合的視座から、思考・感性を開いていくワークショップを展開する。

【到達目標】

他者の文化について関心を高め、関連する先行研究や問題系を踏まえた議論ができるようになる。異文化に開かれた複眼的視野から、自らの思考・表現を相対化し、活性化していけるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

必要な技能:本を読んで、ものを考えること(この授業では、テキストを読み、議論する演習が多く行われます)。

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス・導入:他者の言葉・身体・世界に触発される「音楽」

事前学習	任意の日本の伝統芸能に触れる(映像等でも良い)。	時間	60分
事後学習	授業内で扱われた諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

2.他者の言葉と出会う① 言語の多様性をめぐって

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

3.他者の言葉と出会う②ローカル言語の表象:石牟礼道子『苦海浄土』を読む

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

4.他者の言葉と出会う③ポストコロニアル文学の世界:クレオールと非西欧世界の言語表象

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

5.他者の言葉と出会う④ディアスポラの言葉:言語の他者性

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

6.他者の世界と出会う①カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアリズムの探求

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

7.他者の世界と出会う②鶴見和子の「曼荼羅」の思想と内発的発展論

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

8.他者の世界と出会う③過去との対話:渡辺京二『逝きし世の面影』と石牟礼道子『天湖』

事前学習	前もって配布するテキストを読み、要点を整理する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

9.他者の音楽と出会う①近世邦楽の世界 I:「コンテキスト」からのアプローチ

事前学習	指定した配信動画を事前に視聴する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項について整理し、自ら省察する。	時間	30分

10. 他者の音楽と出会う②近世邦楽の世界 II:「テキスト」へのアプローチ

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

11.他者の音楽と出会う③近世邦楽の世界 III:地歌ワークショップ

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	ワークショップで行われたことについて整理し、考察する。	時間	30分

12.他者の音楽と出会う④異(音楽)言語の「ポリフォニー」の創造

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

13.他者の音楽と出会う⑤異(音楽)言語への「翻訳」の課題

事前学習	事前に配布する音源資料を聴く。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

14.他者の身体と出会う①伝統芸能の身体性・技

事前学習	指定した配信動画を事前に視聴する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

15.他者の身体と出会う②伝統芸能の身体性・技の再創造

事前学習	指定した配信動画を事前に視聴する。	時間	60分
事後学習	授業内で議論された諸事項・分析について整理し、自ら省察する。	時間	30分

【オフィスアワー】

金曜日 調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【教材】

授業時に適宜紹介する。

博士総合演習 B(b)(後期)					
担当教員	渡辺 裕紀子 講師		曜日時限	金 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

本授業では主に 20 世紀から 21 世紀以降の音楽について、音楽家が非西洋文化圏の文化をどのように捉え、それを作品に反映させてきたのか作品に触れながら思考していく。グローバル化する世界の中で音楽は刻々と変化している。世界各地で生まれる音楽は常に社会から影響を受けており、その概念も文脈により異なる。過去の作品を弾く上でも、また新しい作品に触れる上でも、多様な視点で音楽を捉える力はこれからの時代に生きる音楽家として重要なことである。異なる文化感の摩擦が世界中で起きている今、多様性について音楽家として何をどう考えて提示していくべきか、実際に最終授業では自身に関わるコンサートのプログラムを考え、発表してもらおう。

【到達目標】

異なる文化や文脈を持つ作品の背景について学び、多様な視点で音楽をとらえる想像力を身につける。音楽家として生きていく上で、その作品を作曲したり演奏したりする意味や、何かを選択することでどのように見られたり、人に感じさせる可能性があるのか、深く考えることができるようになる。また自らが音楽家として何を大事にしていきたいのか、主体的に考え、言語化できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

博士 1 年～

【授業の形式】

演習(対面)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

モーリス・ドラージュ、ヘンリー・カウエル等の作品①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

2.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

モーリス・ドラージュ、ヘンリー・カウエル等の作品②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

3.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

武満徹の作品など①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

4.<西洋からアジア、アジアから見た西洋、その中にある共通点や違いを知る>

武満徹の作品など②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

5.<隣国の音楽、韓国や中国の音楽と楽器>

イサン・ユンの作品など①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

6.<隣国の音楽、韓国や中国の音楽と楽器>

イサン・ユンの作品など②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

7.<東南アジアの新しい音楽、伝統と革新の関係>

1970年以降のフィリピンの音楽①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

8.<東南アジアの新しい音楽、伝統と革新の関係>

1970年以降のフィリピンの音楽②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

9.<社会と音楽の関係、現代社会問題やポリティクスを含む音楽>

ヨハネス・クライドラー等の作品①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

10.<社会と音楽の関係、現代社会問題やポリティクスを含む音楽>

ヨハネス・クライドラー等の作品②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

11.<女性作曲家を知る>①

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

12.<女性作曲家を知る>②

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

13.<コンサートプログラムを考えるためのディスカッション>

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

14.<発表>

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

15.<発表>

事前学習	演習作品の視聴	時間	45分
事後学習	扱った作曲家や周辺の作品の復習	時間	45分

【オフィスアワー】

金曜日 5限後 調布教員室

【テキスト】

1.Komponieren im Kontext der Globalisierung : Perspektiven für eine Musikgeschichte des 20. und 21. Jahrhunderts Christian Utz 2014 年

【教材】

授業時に指示

博士総合演習 C(a)(前期)					
担当教員	沼野 雄司 教授		曜日時限	金 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

本演習は、修士課程と博士課程の学生を対象にして、20 世紀の「音楽」と「社会」の関係について、クロニクルな認識を土台にした考察を加えるものである。目的は以下の3点に集約される。

(1)20 世紀のレパートリーに対する視野を拡げること

学部教育でレパートリーの中心になっているのはバッハからドビュッシーあたりまでの 200 年ほどの音楽だが、しかし既に世界が 20 世紀に突入してから、120 年以上が経過している。21 世紀の音楽家にとって、これらの作品をレパートリーに取り入れることは必須である(タケミツ一曲をプログラムに組み込んでこと足れりとする時代はすでに過ぎ去った)。本演習はそのための土台を提供する。

(2)音楽の土壌となっている「社会」に対する基本的な知識を習得すること

例えばベートーヴェンの創作の軌跡はフランス革命、あるいはその後のナポレオン戦争の展開と直接的に関わっているが、

こうした意識がない学生はきわめて多い。また、カトリックとプロテスタントの差異を知ることなく「宗教音楽」を演奏する学生も少なくない。今後、プロの音楽家として活動する場合、あるいはヨーロッパで学習を続けることになった場合、こうした無知は致命的なものともなり得る。本演習はそのための基礎を鍛錬する場でもある。

(3) 知的で成熟した音楽家としての基礎を養うこと

大学院という場所は、各人がそれぞれの立場からの知識を交換し、議論を重ねるための「言語」を習得する場でもある。ヨーロッパの音楽家と比した時、日本の音楽家はこの「言語」がきわめて貧しい印象がある。本演習では参加者全員に知的負荷をかけるとともに、明快なプレゼンテーションと積極的なディスカッションを課すことによって、次代を担う音楽人を育成することを試みる。当然ながら、この中で学生は様々な文献を読み、自分の頭で論理を組み立て、積極的に議論を交わすことになるだろう。興味がある学生は、まずは最初のイントロダクションをのぞいてみてほしい。

【到達目標】

20～21 世紀の音楽について確固たる自分のパースペクティブを持ち、意見を述べられるようになること。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

予備知識は特に必要ないが、積極的に発言する姿勢が求められる。

【授業の形式】

【対面】演習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション: 方法・手順・グラウンドルールなど

事前学習	シラバスをよく読んでおくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

2. 1890 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

3. 1900 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

4. 1910 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

5. 1920 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

6.1930 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

7.1940 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

8.1950 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

9.1960 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

10.1970 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

11.1980 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

12.1990 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

13.2000 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

14.2010 年代の音楽と社会

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

15.まとめ

事前学習	文献を精読しておくこと	時間	30 分
事後学習	文献を精読しておくこと	時間	60 分

【オフィスアワー】

メール(numano@tohomusic.ac.jp)などでアポイントをとること。

調布2号館(図書館)1階、研究室1

博士総合演習 C(b)(後期)					
担当教員	佐藤 康太 講師		曜日時限	月 4 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

＜受容研究の基礎＞

音楽作品は、生まれた後作曲家本人の手を離れ、さまざまな形に変容して受容されていく。音楽作品がどのように変容し、新しい上演の文脈においてどのように機能しているかを研究するのが受容研究である。この授業では、音楽作品の受容について基礎的な事柄や研究方法を演習形式で学ぶ。レジュメ作成など口頭発表の基本的な作法も指導する。

【到達目標】

受容研究について基礎的な考え方と方法論を身につけ、自ら受容研究ができるようになる。適切な資料を用意して、口頭発表ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。

【授業の形式】

演習。履修者には1人最低1回、口頭発表をしてもらう(30分程度を想定)。最初数回は講義に近い形で基礎的なことを学び、その後は学生の発表とその内容に関するディスカッションで授業を進める。人数が多い場合には共同発表になることもある。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。口頭発表を 50%、ディスカッションへの参加度や発言、その他課題を 50% で評価する。5回以上の欠席は単位放棄と見なす。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表内容についてはその都度授業内でフィードバックを行う。

【授業展開と内容-後期】

1. 作品の受容とそれを考える意味; 発表順決め

事前学習	音楽作品が生まれた後どのような過程をたどるか、考えておく	時間	30分
事後学習	テーマリストと自身の研究テーマを照らし合わせて、発表内容を考える。	時間	60分

2. 解釈と記述の哲学: 作用史、厚い記述、マイクロヒストリア

事前学習	作曲家とは遠く離れたところでなされる上演を研究対象とすることにどんな意味があるか、考えておく	時間	45分
事後学習	自分が考えている発表テーマが、その時代のコンテキスト全体の中でどのような意義があるか考える。	時間	45分

3. 実践例① 同時代受容: オペラアリアから教会カンタータへ

事前学習	18世紀前半のオペラのアリアの形式について復習しておく。	時間	45分
事後学習	どのような変化によって当該アリアが新しい文脈に適応したか、整理しておく。	時間	45分

4. 実践例② 時の隔たった受容: ナチス政権下におけるヘンデルのオラトリオ上演

事前学習	独裁政権下で音楽にどのような規制がかけられうるか考えておく。	時間	45分
事後学習	授業内容から資料から確実に言えることと、推測による部分を分けて整理する。	時間	45分

5. 以下学生による発表とディスカッション。テーマは一例で、他に興味のあるテーマがある場合には自分で選んだものでもかまわない。

発表①メンデルスゾーンによるバッハ受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
------	--	----	-----

事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分
------	--	----	-----

6. 発表②モーツァルトによるヘンデル受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

7. 発表③隠れキリシタンによる聖歌受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

8. 発表④明治期の洋楽受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

9. 発表⑤ベートーヴェンの交響曲の同時代受容——室内楽編曲

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

10. 発表⑥「第九」の日本における受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

11. 発表⑦「パッヘルベルのカノン」の現代における受容

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめる。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

12. 発表⑧映像作品の中の西洋音楽——《エヴァンゲリオン》《涼宮ハルヒの憂鬱》他

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
------	--	----	-----

事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめ。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分
------	---	----	-----

13. 発表⑨パレストリーナの神格化と19世紀

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめ。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

14. 発表⑩商業戦略としてのクラシックCMにおける西洋音楽

事前学習	発表者: 文献を読み、発表資料を準備し、発表の用意をする。 発表者以外: 発表テーマに関して自分でも簡単に調べておく。	時間	60分
事後学習	発表者: ディスカッションの内容を振り返り、自分の気づいていなかった点をまとめ。 発表者以外: 発表の中で自身の発表に生かせる点をメモしておく。	時間	30分

15. まとめ、講評、展望

事前学習	すべての発表を振り返り、それぞれの要点を確認しておく。	時間	45分
事後学習	自身が作品と関わる際の意味の網目を客観視し、自分が作品にどのような意味を付与するのかを考える。	時間	45分

【オフィスアワー】

火曜 12:40-13:40 仙川教員室

それ以外の時間についてはアポイントメントを取ってください。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

Katrin Gerlach, Lars Klingberg, Juliane Riepe und Susanne Spiegler, Zur Rezeption Georg Friedrich Händels in den deutschen Diktaturen: Quellen im Kontext, Beeskow: Berlin, 2012.

C. ギャーツ『文化の解釈学1』、吉田 禎吾他訳、岩波書店、1987年(岩波現代選書)。

巻田悦郎『ガダマー入門: 語りかける伝統とは何か』、アルテ、2019年。

皆川達夫『洋楽渡来考: キリシタン音楽の栄光と挫折』、日本キリスト教団出版局、2004年。

その他個別トピックについてはその都度指示する。

博士総合演習 D(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員		安田 和信 准教授		曜日時限	
				水 4時限	
実施キャンパス		調布		単位	
				各 1 単位	
				対象年次	
				博士 1 年～	

【授業の概要】

18世紀中期から19世紀初期にかけての音楽の形式分析、特に William Caplin など近年の英米圏の理論を習得することを目的とする。分析対象は J.Haydn, W.A.モーツァルト, L.v.ベートーヴェンの作品とする。形式分析のみならず、音楽に関わる分析には最終的には主観を免れない部分があるとはいえ、多くの現代の研究者たちが援用している分析理論にはやはりある程

度の精度や客観性が認められ、その習得を通じて音楽について書き、語る際の客観性を身につけて欲しい。

前期では主に sentence、period、small-ternary のような比較的小規模なフレーズの分析、後期ではソナタ形式楽章の分析を扱う。後期の議論は前期が前提になっているため、後期受講希望者は前期の履修を勧める。

授業の流れは前期・後期ともに以下のようにする予定である。

最初の数回は教員による実例の分析を通じて、理論の骨格、分析のための用語などを習得する。

その後は各回につき数名(受講者の人数による)が分析のプレゼンテーションを行う。

どの回においても発表者や教員だけでなく履修者全員が活発に意見交換、議論を行い、優れた音楽の書き手、語り手を養成する場としても機能するように努めていきたい。

この授業の対象とする時期は限定的ではあるが、紹介する理論は特に 19 世紀初期以降の音楽にも十分応用が可能であり、特に形式分析について関心を持つ学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

18 世紀中期から 19 世紀初期にかけて音楽を対象とした形式分析の理論を習得し、客観的な分析記述ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

積極的に議論をしたい人を歓迎する。

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクションおよび教員による基本用語の紹介

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

2. 教員による分析のプレゼンテーションとディスカッション

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

3. 履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション1

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

4. 履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション2

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

5. 履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション3

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

6. 履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション4

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

7.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション5

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

8.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション6

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

9.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション7

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

10.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション8

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

11.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション9

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

12.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 10

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

13.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 11

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

14.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 12

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

15.まとめ

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】**1.イントロダクションおよび前期の振り返り**

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

2.教員による分析のプレゼンテーションとディスカッション

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

3.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション1

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

4.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション2

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

5.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション3

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

6.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション4

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

7.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション5

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

8.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション6

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

9.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション7

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

10.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション8

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

11.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション9

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

12.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 10

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

13.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 11

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

14.履修者による分析のプレゼンテーションとディスカッション 12

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

15.まとめ

事前学習	classroom で配布した資料を読んでおくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習	時間	45 分

【オフィスアワー】

水曜日 5 限後に時間を確保します。

博士総合演習[音楽文化研究](a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	長木 誠司 特任教授		曜日時限	火 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

ワーグナーのオペラとその周辺

【到達目標】

19 世紀オペラの研究の中で、どうしてもはずせないワーグナー作品を、昨今の演出舞台のなかで検討する。その際、19 世紀初頭のグラントペラ、19 世紀末のポストワーグナーの作品も視野に入れる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

各作品の梗概は事前に押さえておくように。できれば実地に作品を見に行く機会も設けたい。

【授業の形式】

講義を中心とするが、演習的な討論も交えていきたい。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%	20%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ワーグナーおよびワーグナー作品の概要

事前学習	履修者は、それぞれ自分にとってのワーグナーのイメージを考えておくこと	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45 分

2.初期 3 作について(《妖精》、《恋愛禁制》、《リエンツィ》)について検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45 分

3.《さまよえるオランダ人》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45 分

4.《タンホイザー》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45 分

5.《ローエングリン》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45 分

6.《トリスタンとイゾルデ》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。作品の音楽史上の位置づけを確認しておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

7.《ニュルンベルクのマイスタージンガー》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。徒弟制度の概要を調べておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

8.《ニーベルングの指環》のうち《ラインの黄金》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。ことに3つの世界の人物関係を。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

9.前回到続いて《ワルキューレ》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

10.前回到続いて《ジークフリート》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

11.前回到続いて《ジークフリート》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

12.前回到続いて《神々の黄昏》前半を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

13.前回到続いて《神々の黄昏》後半を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

14.《パルジファル》を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

15.ここまでの作品を振り返りながら、ポストワーグナー作品を検討する。

事前学習	梗概を頭に入れておくこと。	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

【授業展開と内容-後期】

1.20世紀オペラ その1

事前学習	20世紀オペラにどのようなものがあるか、ざっと調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

2.20世紀オペラ その2

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

3.20世紀オペラ その3

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

4.20 世紀オペラ その4

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

5.20 世紀オペラ その5

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

6.20 世紀オペラ その6

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

7.20 世紀オペラ その7

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

8.20 世紀オペラ その8

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

9.20 世紀オペラ その9

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

10.20 世紀オペラ その10

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

11.20 世紀オペラ その11

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

12.20 世紀オペラ その12

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

13.21 世紀オペラ その1

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

14.21 世紀オペラ その2

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

15.21 世紀オペラ その3

事前学習	予告された作品の概要を調べておくこと	時間	45分
事後学習	授業内容の復習と理解	時間	45分

【オフィスアワー】

メールのやりとりでその都度設定する。

【その他】

参考書として三光長治・三宅幸雄ほか編『ワーグナー オペラ対訳シリーズ』(全 10 冊、白水社、五柳書院)、長木誠司『オペラの 20 世紀』(平凡社)、長木誠司『オペラ、愛の壊れるとき』(音楽之友社)、丸本隆ほか編『キーワードで読む オペラ/音楽

博士総合演習[楽書原典研究](a)(英)(前期),(b)(英)(後期)					
担当教員		上尾 信也 講師		曜日時限	
				金 5 時限	
実施キャンパス		調布		単位	
				各 1 単位	
対象年次		博士 1 年～			

【授業の概要】

〈祝祭と機会音楽〉

音楽は何らかの機会のために創作された。

宗教的機会をはじめ何らかの権威者の主宰する音楽機会は、冠婚葬祭の儀礼、軍楽、公私の(自演を含む)「娯楽」、さらには療法、近世には、演奏会や音楽再生(楽譜やその他の媒体を介しての)をはじめとする経済行為が創作の動機の大半を占める。

なかでも、「祝祭」は今日まで継承された総合的な音楽の機会であった。近代に分化した芸術諸分野(演劇、音楽、美術)や文芸(文学、思想哲学)、身体運動、建築の表現の場であり、そこには政治的宗教的意図が介在している。経済社会活動にも大きな影響を与える祝祭は、それゆえ資料も多く残されている。しかし、歴史学では等閑視され、音楽史では社会史的な一側面としてとらえられている嫌いがある。しかし、権力者による祝祭は当代随一のイベント(事業)として、考えられる最高の人材と最良の創作が行われたと考えらる「権力の示威行為」なのである。

音楽史を紐解いてみても、ルネサンスの祝祭からは音楽劇を始めとして社会的に成長していく分野も多く、その後も祝祭を契機に音楽の作曲法や楽器の技術的進化、表現の多様性や融合を生み出した。ルイ 14 世の一連のディヴェルティスマンのように、ヴェルサイユ宮殿ごとそのほかの宮廷に影響を与え、管弦楽団(そもそもギリシア劇場のオーケストラが舞台上に上がったことに由来)や演目の由来となった。

本講座では、まずは近世(18 世紀)までの「祝祭」を一次資料を利用した研究文献(主に英語)や図像資料・音源等の再現資料を参照しつつ、読解し再構築する。

後半では、近代(19 世紀以降)の音楽諸分野と祝祭的イベントの関係を探り、20 世以降は国際的な祝祭イベントであるオリンピックの機会音楽なども視野に入れて、音楽作品の創作とその影響についても、読解し考察していく。

【到達目標】

原典の英訳と解題によって大まかな内容を理解できるようになる。

音楽の中核は機会音楽であることを祝祭から理解できるようになる。

一次資料(原典)と二次資料(二次文献)の概要を理解できるようになる

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

音楽史について一般的な流れを理解していること。音楽に限らない様々な分野に関心があること。

他者の考えを尊重できること。

【授業の形式】

演習(ゼミナール)、パソコンなどを使い検索やネット情報なども利用する。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、受講姿勢(平常のワーク)と提出期末課題についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, Dで評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. I 祝祭とその記録(1):祝祭と芸能、祝祭本と図像資料

事前学習	資料と研究方法についてのファイルを読んでおくこと	時間	30分
事後学習	配布された教材テキストをざっと読んでみる	時間	60分

2. I 祝祭とその記録(2)祝祭本について

事前学習	Text: Bowles, Edmund A., "Music in court festivals of state: festival books as sources for performance practices," <i>Early Music</i> , XXVIII/3 (2000), p. 421-443. を読んでおく。	時間	30分
事後学習	参考文献を調べる	時間	60分

3. I 祝祭とその記録(3)研究史

楽器の図像学から音楽の図像学へ祝祭本解題

事前学習	調べた参考文献についてリスト化する。	時間	60分
事後学習	研究史の文献について調べる。	時間	30分

4. II トーナメント:武力の王権から祝祭の王権へ(1)

Barber, Richard & Barker, Juliet, *Tournaments: Jousts, Chivalry and Pageants in the Middle Ages*. Woodbridge(Suffolk): Boydell & Brewer, 1989; paperback 2000.

事前学習	トーナメントについて調べてみる	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。改訂には、注記や関連事項の解説を含む(以下同様)	時間	30分

5. II トーナメント:武力の王権から祝祭の王権へ(2)

Text: Tydeman, William (ed.), *The Medieval European Stage, 500-1550*. (Theatre in Europe: a documentary history), Cambridge: Cambridge University Press, 2001 [Tydeman]

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

6. III 祝祭図像のなかの音楽 1. 細密画のマイクロコスモス:中世の写本挿図(ミニアチュール)の音楽とその意味

Bowles, E.A., *La pratique musicale au Moyen Age/ Musical Performance in the late Middle Ages: Musical Iconography*, Paris: Editions Minkoff & Lattès, 1983 [Bowles 1983]

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

7.2. 初期絶対王政の祝祭図像と音楽表象(16世紀)

Text: Bowles E.A., *Musical Ensembles in Festival Books 1500-1800: An Iconographical and Documentary Survey*. Michigan: UMI Research Press, 1989 [Bowles 1989]+

比較検索:[Watanabe-O'Kelly & Simon]

Watanabe-O'Kelly, Helen & Simon, Anne, *Festivals and Ceremonies: A Bibliography of Works relating to Court, Civic and Religious Festivals in Europe, 1500-1800*, London/New York: Mansell, 2000.

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

8.2-a) 神聖ローマ帝国ハプスブルク皇帝家:カール5世とフェリペ2世

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

9.2-b) ルネサンスイタリアの祝祭:メディチ家のフィレンツェ

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

10.2-c) フランス王家

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

11.2-d) イングランド王家:女王エリザベスの祝祭

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

12.2. 絶対王政の祝祭図像と音楽表象(17世紀)

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

13.2. 絶対王政の祝祭図像と音楽表象(18世紀)

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。	時間	30分

14.3. 「王の声」と「王の音」:王権の神格化と音楽表象

事前学習	14世紀から18世紀に至る王権の儀礼音楽について具体的な作品を調べておく	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめる。	時間	30分

15.まとめ ナポレオンの戴冠式の音楽

事前学習	最終課題を準備する。	時間	60分
事後学習	最終課題を提出する。	時間	30分

【授業展開と内容-後期】

1. 国民国家の祝祭とは何か

近代(19世紀以降)の音楽諸分野と祝祭的イベントの関係を探り、20世紀以降は国際的な祝祭イベントであるオリンピックの機会音楽なども視野に入れて、音楽作品の創作とその影響についても、読解し考察していく。

事前学習	講読文献に関しては後期開講時まで指示する。 Bohlman, Philip V., The Music of European Nationalism: Cultural Identity and Modern History. Santa Barbara, Cal./ Denver, Col./ Oxford: ABC-Cl io, 2004 (予定)	時間	30分
事後学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分

2. 「革命祭典」を読む—フランス革命、市民革命の音楽 歌う革命

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	30分

3. 19世紀の機会音楽1 国家の祝祭・儀礼—王権の音楽を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。改訂には、注記や関連事項の解説を含む(以下同様)	時間	30分

4.19 世紀の機会音楽2宗教的祝祭—プロテスタントとカトリックの音楽的展開を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する。改訂には、注記や関連事項の解説を含む	時間	30分

5.19 世紀の機会音楽3コンサート(祝祭的時空)を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

6.19 世紀の機会音楽4オペラを読む(歴史と国家の創生物語)

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

7.19 世紀の機会音楽5国歌、ナショナリズムの音楽を読む

Eyck, F.Gunther, The Voice of Nations. European National Anthems and Their Authors, (Contributions to the Study of Music and Dance,34), Westport,Conn./London: Greenwood Press, 1995.

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

8.19 世紀の機会音楽6民族と世紀末を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

9.20 世紀の機会音楽1「帝国と音楽」を読む～帝国主義と植民地

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

10.20 世紀の機会音楽2万国博覧会の音楽を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

11.20 世紀の機会音楽3「戦争と音楽」を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

12.20 世紀の機会音楽4オリンピックの音楽を読む

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

13.20 世紀の機会音楽5第二次世界大戦後の機会音楽とは

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

14.21 世紀の機会音楽—経済と音楽

事前学習	授業該当箇所を訳出する。	時間	60分
事後学習	授業該当箇所を訳出し改訂したものを提出する	時間	30分

15.まとめ 機会音楽とクラシック音楽

事前学習	今までの授業の中では19世紀の「クラシック」音楽が果たした役割をたどってきた感がある。その意味を踏まえて、現在の音楽の意味を考えてみる。	時間	60分
事後学習	ディスカッションの結果をまとめる	時間	30分

【オフィスアワー】

演習の前後に時間を確保します。

【教材】

Bowles E.A., Musical Ensembles in Festival Books 1500–1800: An Iconographical and Documentary Survey. Michigan: UMI Research Press, 1989 [Bowles 1989]

以上は図書館にあり

Watanabe-O’Kelly, Helen & Simon, Anne, Festivals and Ceremonies: A Bibliography of Works relating to Court, Civic and Religious Festivals in Europe, 1500–1800, London/New York: Mansell, 2000.

など適宜指示します

博士総合演習[楽書原典研究](a)(独)(前期),(b)(独)(後期)					
担当教員	佐藤 康太 講師	曜日時限		火 2 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

ドイツ語で書かれた音楽書を輪読する。文法の復習をしつつ、長い文章を読むうえで必須となる読解能力を養う。特に多くの副文を含む複雑な文を、主語述語および関係詞の指すものを明確にしながら読む練習を行う。前期は Michael Maul の Bach: Eine Bildbiographie (図版を多く含むバッハの伝記)から、いくつかの項目を抜粋で読む。後期に関しては履修者の専攻や興味に応じて文献を選ぶが、特に分析的な文章を読む予定である。ドイツ語の読解に加えて、内容に関するディスカッションを行う。

【到達目標】

複雑な文法構造を分析しつつ、正確にドイツ語の文章が読めるようになる。音楽書を読むうえで必要な語彙を身につける。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ドイツ語文法は一通り学習済みであることを前提とする。加えて、簡単な文章をすでに読んだ経験があることが望ましい。授業内で文法事項の復習はするが、一から教えることはしない(2年程度のドイツ語学習歴を想定)。不安な場合は初回に相談すること。なお学部・大学院共通授業となる。

【授業の形式】

演習(文献の講読およびディスカッション)。毎回指定された部分を訳してくること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	40%	60%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。各学期末に授業内で小テストを行い、それを 40% で評価する。毎回の訳やディスカッションへの参加度を受講姿勢 60% とする。各学期 5 回以上の欠席は単位放棄と見なす。

【課題に対するフィードバックの方法】

訳および授業内課題に関してはその都度授業内でフィードバックする。学期末の小テストに関しては、終了後に授業内で解説を行う。

【授業展開と内容-前期】

1.文献紹介、講読箇所の設定、分担割り振り

事前学習	バッハの生涯および代表的な作品について音楽事典で調べておく。	時間	45分
事後学習	決められたページをざっと読み、分からない単語や文構造にチェックを入れておく。	時間	45分

2.講読とディスカッション①

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

3.講読とディスカッション②

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

4.講読とディスカッション③

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

5.講読とディスカッション④

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

6.講読とディスカッション⑤

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

7.講読とディスカッション⑥

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

8.講読とディスカッション⑦

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

9.講読とディスカッション⑧

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

10.講読とディスカッション⑨

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

11.講読とディスカッション⑩

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

12.講読とディスカッション⑪

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

13.講読とディスカッション⑫

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

14.講読とディスカッション⑬

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

15.小テストとフィードバック

事前学習	前期に読んだ部分を見返し、要約を作っておく。	時間	60分
事後学習	フィードバックを受けて、改めて問題を解いて理解を確認する。	時間	30分

【授業展開と内容-後期】**1.文献紹介、講読箇所の決定、分担割り振り**

事前学習	前期の内容を振り返り、複雑な文法事項を復習しておく	時間	45分
事後学習	決められたページをざっと読み、分からない単語や文構造にチェックを入れておく。	時間	45分

2.講読とディスカッション①

事前学習	ページ全体を読んだうえで特に自分の分担部分については訳を作成しておく	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

3. 講読とディスカッション②

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

4. 講読とディスカッション③

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

5. 講読とディスカッション④

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

6. 講読とディスカッション⑤

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

7. 講読とディスカッション⑥

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

8. 講読とディスカッション⑦

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

9. 講読とディスカッション⑧

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

10. 講読とディスカッション⑨

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

11. 講読とディスカッション⑩

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

12. 講読とディスカッション⑪

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

13. 講読とディスカッション⑫

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

14. 講読とディスカッション⑬

事前学習	ページ全体を読んだうえで、特に自分の分担部分については訳を作成しておく。	時間	45分
事後学習	未知の単語や文法事項を書き出してまとめる。文献に出てきた作品や概念について、音楽事典等で調べて理解を深める。	時間	45分

15. 小テストとフィードバック

事前学習	後期に読んだ部分を見返し、要約を作っておく。	時間	60分
事後学習	フィードバックを受けて、改めて問題を解いて理解を確認する。	時間	30分

【オフィスアワー】

火曜 12:40-13:40、仙川教員室。

それ以外の曜日時間に関してはメールでアポイントメントを取ること。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

Michael Maul, Eine Bildbiographie, 2. Aufl., Leipzig: Lehmanns 2022. (前期テキスト; 必要な部分のみコピーを配布する。購入の必要はない。)

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ』、白水社、2003年。(文法事項をおさらいするのに便利な本。特に必須ではない。)

博士総合演習[楽書原典研究](a)(仏)(前期),(b)(仏)(後期)					
担当教員	永井 玉藻	曜日時限	木 2時限		
実施キャンパス	仙川	単位	各 1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

19世紀以降にフランス語圏で活動した作曲家による、フランス語の執筆物(手紙や公演評など)を取り上げ、抜粋で講読する。事前に指定した課題文について、文法の解説を行うと同時に、文章が書かれた背景や関連する作品に関して、履修生に発表を行ってもらい、理解を深める。また、自筆史料との比較を通して、史料調査に関する基礎知識も紹介する。

【到達目標】

- ・フランス語の基礎文法を再確認し、欧州評議会レベル B1 以上相当の文章を読むことができるようになる。
- ・フランス語圏の作曲家や作品に関する知識を深める。
- ・デジタルアーカイブや AI ツールを利用した史料調査の基礎的スキルを習得し、適切に使いこなせるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

フランス語の読解については、最低でも1年間、一通りの初級文法事項を学んでいることを履修の前提とする。また、指定された課題や事前学習、授業内の課題実施に積極的に取り組み、授業を通して得た知識を自らの研究やレポート執筆に活用する意欲を持っていること。

【授業の形式】

講義を中心とするが、課題文に関連する事項に関して、各回、担当の履修者からプレゼンテーションを行なってもらう。また、フランス国立図書館のデジタルアーカイブ「Gallica」や、AI 古文書解読ツール「Transkribus」などを使用するため、ネットワーク環境下にあるスマートフォンやパソコン、タブレットなどを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション

事前学習	フランス語基礎文法の確認をしておく。	時間	45分
事後学習	指定された課題に取り組み、次週授業に備える。また各種データベースや AI ツールへの接続、基礎的な使用方法を確認する。	時間	45分

2.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組み。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

3.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組み。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

4.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む③

事前学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

5.ドビュッシーの書簡(清書済み)を読む④

事前学習	前週に指定された課題に取り組み。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

6.ドビュッシーの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

7.ドビュッシーの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

8.ドビュッシーの書簡(自筆)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

9.ベルリオーズの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

10.ベルリオーズの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

11.ベルリオーズの書簡(清書済み)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

12.ベルリオーズの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

13.ベルリオーズの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

14.ベルリオーズの自伝を読む

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。	時間	45分
事後学習	文法事項と文章内容を復習する。	時間	45分

15.ベルリオーズの書簡(自筆)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

【授業展開と内容-後期】**1.オリエンテーション**

事前学習	フランス語基礎文法の確認をしておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

2.ドビュッシーの評論集を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

3.ドビュッシーの評論集を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

4.ドビュッシーの評論集を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

5.フォーレの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

6.フォーレの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

7.フォーレの書簡(清書済み)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

8.フォーレの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

9.フォーレの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

10.フォーレの書簡(自筆)を読む③

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

11. マスネの書簡(清書済み)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

12. マスネの書簡(清書済み)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

13. フランス国立公文書館のアーカイブ史料を読む

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。	時間	45分
事後学習	文法事項と文章内容を復習する。	時間	45分

14. マスネの書簡(自筆)を読む①

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

15. マスネの書簡(自筆)を読む②

事前学習	前週に指定された課題に取り組む。発表担当者はプレゼンテーションの準備を行う。BNF-Gallica、Transkribus の使用方法に慣れておく。	時間	45分
事後学習	文法事項の確認、データベースでの資料検索を行う。	時間	45分

【オフィスアワー】

木曜日 仙川教室にて、授業前後に時間を確保する。

【テキスト】

1. Claude Debussy: Lettres 1884-1918 Debussy, Claude 1980年 2705659188
2. Correspondance ; suivie de Lettres à madame H. / Gabriel Fauré ; recueillies, présentées et annotées par Jean-Michel Nectoux. Fauré, Gabriel 2015年 9782213687087
3. Le Musicien Errant, 1842-1852 / Hector Berlioz ; correspondance publiée par Julien Tiersot Berlioz, Hector 1919年
4. Massenet en toutes lettres / Anne Massenet. Massenet, Anne 2001年 9782877064224
5. Monsieur Croche Debussy, Claude 2020年 9782070711079
6. Mémoires Berlioz, Hector 2010年 9782081250703

【教材】

上記テキストから抜粋した箇所を、Classroom を通して配布する。また、作曲家の自筆書簡などは、授業中に適宜データベースにアクセスして閲覧するほか、紙媒体も必要に応じて配布する。

【その他】

履修者のフランス語レベルチェック、各種使用ツールの確認のため、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。また、シラバス内容は、履修者の進捗や関心に応じて変更する可能性がある。

博士総合演習[音楽資料研究](前期)					
担当教員	安田 和信 准教授		曜日時限	水 5時限	
実施キャンパス	調布	単位	1単位	対象年次	博士1年～

【授業の概要】

音楽文献や楽譜を探索するためのノウハウを学ぶ。音楽学の研究者のみならず、演奏家や作曲家にとっても氾濫する情報を整理することは極めて重要な作業である。この授業では、本学図書館所蔵の資料を実際に手に取りながら、様々な角度から情報収集と整理の方法を見ていきたい。紙媒体のみならず、インターネットによる文献探索等にも時間を割く予定。

【到達目標】

音楽文献の探索法を理解し、情報収集能力を高める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

博士1年～。

【授業の形式】

演習。

例年受講者の多い授業であるため、教室のキャパシティを超えた場合は履修制限をする可能性がある。

インターネットを活用した資料検索も積極的に取り上げるため、履修者はスマホやパソコンを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

原則として前回の課題について次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. イントロダクション(文献とは何か) & 作品目録その1

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

2. 作品目録1

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

3. 作品目録2

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

4. 作曲家研究(Year Book/書簡集/ドキュメント/研究書)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

5. 伝記記述(Bach/Mozart/Beethoven)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

6. 伝記的ビブリオグラフィ(Bio-bibliography/A Guide to Research)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
------	---------------------------	----	-----

事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分
------	---	----	-----

7.音楽学文献(Allen/Laaber/Duckles/Marco)と音楽資料事典

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

8.Music Index/RILM/RIdM/RIPM

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

9.楽譜出版・全集の歴史

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

10.楽譜目録の歴史(Hofmeister=Whistling/Pazdirek)

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

11.定期刊行物(雑誌)と On-line 論文・雑誌検索

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

12.叢書楽譜

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

13.RISMの詳細

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

14.音楽事典

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	授業で触れた資料(およびそれに類似した資料)を実際に手に取り、またはオンラインで確認した上で活用方法を復習すること	時間	70分

15.前期のまとめ

事前学習	classroom 上の資料を事前に読んでおくこと	時間	20分
事後学習	前期で学習した資料の活用方法についてしっかり復習をすること	時間	70分

【オフィスアワー】

水曜 5 限後 調布にて時間を確保します

【教材】

原則として毎回、Classroom を通じて資料を配布する。参考書については授業内で指示する。

博士総合演習 E I [作曲法研究](集中)

担当教員	近藤 譲 特任教授	曜日時限	金 3 時限
実施キャンパス	調布	単位	1 単位
		対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

西洋の芸術伝統における「音楽」というものを成り立たせている基本的な諸要素について、作曲家の視点から考察する。それらの要素には、音楽の記号論的側面(素材、形式・構造)と、意味論的側面(表現、意味)の両面が含まれる。考察に当たっては、20世紀以降に作曲された具体的な作品を一つ取り上げ、それを糸口として、現代の音楽を中心に据えつつ、西洋の音楽伝統の歴史全体を視野に入れて論じることによって、常に、現代の音楽と過去の諸時代の音楽の歴史的な繋がりを見る。こうした音楽の考察は、現代の音楽の理解に役立つだけでなく、過去の時代の音楽の現代における理解にも資するだろう。

【到達目標】

音楽の構造や形式、音楽の意味と歴史についての理解を深めることができる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

音楽理論と音楽史に関する基本的な知識を具えていることが望ましい。

【授業の形式】

講義が中心となる。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	30%	70%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験/学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. 授業期日: 4 月 12 日 (金)。内容: 音楽の伝統的な組織構造と、20 世紀におけるその変化について、C. ドビュッシー《グラナダのタベ》を糸口に論じる。

事前学習	C. ドビュッシー《グラナダのタベ》を聴いておくことが望ましい。	時間	30 分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60 分

2. 授業期日: 5 月 17 日 (金)。内容: 音楽の形式と構造という概念について、P. ブーレーズ《主のない槌》を糸口に論じる。

事前学習	P. ブーレーズ《主のない槌》を聴いておくことが望ましい。	時間	30 分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみることを望ましい。	時間	60 分

3. 授業期日: 6 月 14 日 (金)。内容: 音楽の構成要素としての音響、あるいは、テクスチャーについて、G. リゲティ《フリードリヒ・ヘルダーリンによる3つの幻想曲》を糸口に論じる。

事前学習	G. リゲティ《フリードリヒ・ヘルダーリンによる3つの幻想曲》を聴いておくことが望ましい。	時間	30 分
------	---	----	------

事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分
------	--------------------------------------	----	-----

4.授業期日:7月19日(金)。内容:音楽における素材である「音」を強調する作曲の超越主義的な姿勢について、E. ヴァレーズ《ハイパープリズム》を糸口に論じる。

事前学習	E. ヴァレーズ《ハイパープリズム》を聴いておくのが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分

5.授業期日:9月20日(金)。内容:「旋律」というものについて、そして、その作曲上の可能性について、C. ヴィヴィエ《私は見知らぬ街に戻ってきた》を糸口に論じる。

事前学習	グレゴリオ聖歌を聴いておくのが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分

6.授業期日:11月15日(金)。内容:「芸術」とは何か、ということについて、F. ラーベ《Was??》を糸口に論じる。

事前学習	ベートーヴェンの第3交響曲「英雄」を聴いておくのが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分

7.授業期日:12月13日(金)。内容:作曲における「歴史」の役割について、C. アイヴズ《3つの四分音小品》を糸口に論じる。

事前学習	L. ベリオの《シンフォニア》を聴いておくのが望ましい。	時間	30分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	60分

8.授業期日:1月10日(金)。内容:一人の作曲家として、私自身の作曲経験を通じて、美学的姿勢と作曲について論じる。

事前学習	近藤謙の作品をいくつか聴いておくのが望ましい。	時間	60分
事後学習	講義内容に照らしつつ、授業内で触れた作品を改めて聴いてみるのが望ましい。	時間	30分

【オフィスアワー】

各回の授業終了後の時間。

【教材】

各回の授業でプリントを配布する。

博士総合演習 E II [作曲法研究](集中)					
担当教員	藤井 一興 特任教授		曜日時限	水 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	博士 1 年～

【授業の概要】

次に展開し移行するための基本演習の習得。作曲家の考えたオーケストレーションの必然を分析する。作品の楽譜をコピーして配布する。

【到達目標】

様々なスタイルを的確にレジュメする応用能力を養われたい。自分である事象を敷衍する能力を身に付けてほしい。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

基本的な和声対位法、学識を修めてほしい。様々なオーケストレーションにも興味を持ってほしい。

【授業の形式】

講義を中心とする。バロックから古典、ロマン派、近現代までの重要なレパートリーを研究する。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回の授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1.9月25日

ベートーヴェン ピアノソナタ 作品109

常に新鮮な呼吸、左手の休符が作り出す音響空間の素晴らしさ。2楽章における同主短調の精神の厳しさ。3 楽章の時空間の広がり。バスのラインの美しさ。自在な変奏による精神の柔軟性。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

2.10月2日

プーランク 2台ピアノのためのコンチェルト

音域リズムの設定が素晴らしく、同じモチーフを用いているとはとても思えない。オーケストラの打楽器の扱いもいつも生き生きとしている。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

3.10月9日

ラヴェル ダフニスとクロエ

生き生きとしたアップビートとバレエの必然性、美しく立体的なオーケストレーションの学習。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

4.10月16日

武満徹のオーケストラ作品 妖精の庭

繊細なオーケストレーションの研究。無駄の無い音域の設定、呼吸する美しいリズム、細かい微分音程の美しい綾。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

5.10月23日

ドビュッシー 映像

第1集

水の映像が繰り広げる様々な倍音の組み合わせ。多彩な音域の変化。ドビュッシーがラモーに対する畏敬の念がドビュッシーの息吹と共に深く伝わる。抽象的な動きが現代に再び聴いても新鮮な感性に驚きを隠せない。

第2集

全音音階とリズムの組み合わせが後に倚和音を伴い、斬新な音響空間を繰り広げる。

第2曲目、ドビュッシーの古い寺院を回想する深い音響、完全四度と完全五度の組み合わせが、現在の人が聴いていても倍音の美しさにハッとさせられる。

第3曲目、ジャポニズムの代表作。ドビュッシーの当時はとてつもなく高価であったに違いない錦鯉の泳ぐ様を自在に表現

した天才的な作品。錦鯉の動きから派生する32音符と64連符を軽やかに演奏されたい。倚音をよく分析されたい。ペダルも濁らないように踏み換えてほしい。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

6.10月30日

シューベルト 冬の旅

詩人の考えた世界に身を委ね自身の人生を重ねるシューベルトの哲学の美しさ。休符の持つ深みに我々は身を委ねる。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

7.11月6日

シューマン 幻想曲

当時としては画期的なピアノリズム、美しい倍音の反響。ポリリズムの巧妙な企て。2楽章の倚音掛留音の多彩な変化に注目。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

8.11月13日

ラヴェル 弦楽四重奏曲 へ長調

美しい対位法の織り成す綾。

2楽章の生き生きしたリズム構成。

3楽章の内面的なチェロの歌。

フィナーレの華やかな弦楽器のリズムが繰り広げるヴィルテュオディティ。

事前学習	様式と形式を把握しておくこと。	時間	30分
事後学習	配布した楽譜を十分に分析して再構築すること。	時間	60分

【オフィスアワー】

調布 213 教室にて授業前後に時間を確保します。